愛國婦人會機關

愛國婦人

每月五日二十日發行

一部金參錢 一ヶ月金六錢 半年分參拾六錢 全國無運送料

廣告料一行六拾錢

本誌全部禁轉載

東京麹町區（牛ヶ淵公園）

發行所 愛國婦人發行所

編輯兼發行人 山津俊夫

印刷人 手島益雄

愛國婦人會の目的は軍人の遺族及癈兵を救護するにあり

社說

否といふ語

英人はお世辭なき國民なり、好きは好きといひ、嫌ひは嫌ひだといふ、人が嫌がるから、又は言ひにくいからとて容赦せず、彼等は各〻自分の說を有つて居て、其說に依て言ひ、人の都合て言はず、彼等は敢て「否」と言ふなり、されど其「否」たる、心にもなき「然り」よりも役に立つ「否」なり。其代り人が「否」といふも怒らず、寧ろ雷同の「然り」よりは、其人の物たる「否」を喜ぶなり。從て英人は一寸見ると傲慢らしく無愛想なるが如きも、よく交際ふて見れば、嘘がなくて氣がおけず、表裏がなくて樂なり。翻つて日本人は如何にと見るに、日本人は「否」といふことをよく言はぬ人民なり、よく笑ひ居る者には、笑を消して「否」といふの勇氣なければなり、從て人に意見を求むるも、相手が少しく權力あり又は身上の人ならば、唯贊成するのみにて、相談が相談にならず、向ふが足らぬ人間ならば、一同贊成とて喜ぶならんも、少しく考へある者は、斯る雷同の贊成は苦々しく思ふことなり、それて贊成といふも、眞底贊成なるや又は心中には不同意なるも、お交際に贊成といひ居るにやよく分らず、不本意千萬なる決定を見ること少からず、これ「否」といふの勇氣なくして、當座の小都合の爲めに、永遠の大利害を犧牲にするもの、不深切この上あるべからず、人々互に競ひ、打明けての話し出來ぬといふも、つまりはこの贊成の安賣りをして、當てにならぬを以てなり。當てにならずとありては、人の一分は廢りたるなり、されば意見は應ならば應、否ならば否とハッキリ言ふべし、これぞ眞の深切實意にして、我れある人と言ふべきなり。「否」の言へぬ中は、人としても、國としても決して大なるものにあらず、我等はこの「否」が男子は勿論、婦人にも早く言へるやうならんことを切望するものなり。

婦人の衣服

櫻が咲いて人が出て、今が婦人の盛裝して、人に見せたい最中なり。中にはあんな着物もあるものかと思はるゝ奇麗なのを着て、練り行くものもあり、何所の娘か知らざれど、少し奢りが過ぎたり、一體日本の婦人は貧乏のわりに、着物だけは贅澤なり、戰後はことに奢侈に陷り易きもの、愼まざるべからず、盛裝せる己が足許には、埃にまみれし皺くちゃ媼の頻りにお辭儀せるものあるを見れば、双子なりとて苦情の言へるものにあらず、人に貴きは着物の花より心の花なりと知るべし。

笑ひ方

文學士　下田次郎

人は笑ふ唯一の動物なりとは、さる學者の人間に下したる定義なり、笑はずとも人間たるに差支なけれど、孰れかといはゞ、人は笑ふ方がよきなり、また實際一生笑はずに居れるものにあらず、然れども其笑ひ方にも樣々あり、眞に可笑くて笑ふあり、可笑しくないのを無理に笑ふあり、或は顏の崩れるほどの大笑ひあり、一寸した破顏微笑といふもあり、自然の笑ひ、不自然の笑ひ、善意の笑ひ、惡意の笑ひと、仔細に笑ひの種類性質を研究すれば、中々笑ひなりとて、簡單無造作のものにあらず。日本人はよく笑ふ人民なり、恐らく世界中一番よく笑ふ人民なり、そは可笑しくて笑ふかといふに、可笑しくて笑ふは勿論、可笑しくないのにも笑ひ、何ともないにも笑ふ、つまり笑ひは日本人の癖なり、その人に應對する有樣を見るに、一言いふては笑ひ、二言いふては笑ふ、殊に婦人の如きは、始めから仕舞まで殆んど笑ひ續けといふも過言にあらず、尤も追々親しくなれば、本來の自然に復して可笑しからねば笑はぬやうになるも、初對面同志などは甚だ贅澤にこの笑ひの交換を行ふなり。これは別に大した意味のあるにあらず、幼よりの見習ひが、癖となりたるなり。西洋人の日本に來りて不思議に思ふその一は、このよく日本人の笑ふことなり。この笑ひや甚だ無造作なるが如きも、自ら出し方ありて、其呼吸中々容易ならず、恰も洋人の日本語を學ぶに、その「てにをは」の用方に困ると一般なり、流石に日本人は生來の慣れにて、甘く笑ふも、その意味は日本人だけに分るにて、他國人にはよく分らず、從て時にはその笑ひが人を馬鹿にして居るが如く取られて、相手の怒りを買ふことあり、例せば長者が眞面目に親切に、意見し居る最中に、意見さるゝ本人が笑ひ顏して居ることあり、この笑ひには赤面、納得、改心、感謝等の意の籠れるなるも日本人の笑ひ方を知らざる者には、折角の意見を馬鹿にして居るとしか見へず、日本人が外國にありて往々しくじる所以の一なり。則ち笑ひにも程度ありて、日本人は笑ひ過ぎる方なれば、今少しく笑ひの儉約をなさゞるべからず。一體可笑しくないのに笑ふは、不自然なり、日本人の笑ひには、此不自然なるものの多し、一日注意して笑へる度毎に、果して可笑しくて笑へるのか、お勤めに笑へるかを考へ見れば、自ら此事明かなるべし。元來笑ひは天眞爛熳、自然より出でゝ、骨の折れず、愉快なるべき筈なるに、苦勞して作つてまでも笑ふべき必要何處にある、それも少々ならば愛嬌とも言はるれど、日本人のは愛嬌を過ぎて、殆んど無意味に陷れるものなり。思慮あるものは、猥りに笑はず、よく笑ふものは、安ッぽくして、貫目なし。婦人の往々輕々しく見ゆるは、下らぬことによく笑ふからなり。日本人の西洋人と應對するを見るに、向ふは泰然として眞面目に構へ居るに反し、此方は分けなしに笑ふて掛るなり。如何にも媚び諂へるが如く見へて、甚だ品格を下げ見苦しきことあり。且可笑しくなきに笑ふより、底氣味惡るく、笑ふても氣はゆるせずとて、却て親密なる交際は結ばれざるなり。こうなれば笑も禍にて、決して笑ふどころにあらず。笑ふも可なり、されど笑はゞ信用の出來る笑ひ方をなすべし。日本人はよく笑ふといはゞ、唯笑ふ一方かといふに、左にあらず、笑ふべからざるに笑ふと共に、また笑ふべき所に笑はざるの癖あり、其自然に反するは即ち一なり。此方は容赦に過ぐるより來れるものにて、殊に婦人に多きやうなり。例へば會などありて、無邪氣に笑ふべき場合にも、魚の如く默つて居るより、坐が白けて、仕舞ひまで肩を凝らして居ることあり。則ち日本人は大に笑ふこともせず、又大に眞面目なることも能はずして、其中程の年中エヘリ〱笑ひ居る人民也。日本ではお互故此事に氣付かざるも、外國に出て外人と交際するに及んで、日本人の笑ひ方には一風あり、改良を要すべきものあるを覺ゆるなり。今や春風駘蕩草木禽鳥皆笑ふの候、日本人の笑ひ方に就て一言し、其反省を求むる亦時を得たりといふべきか。

岩野泡鳴

雲の袖に
つゝむは何ぞ――
光おもき
黄がねにあらじ。

雲の袖に
載するは何ぞ――
色もかたき
白がねならじ。

かろく、やわく
ゆふ日を受けて、
空に浮ぶ
けしきを見ずや。

天に登る
琥珀の香爐、
けむり卷きて、
燻ゆるが如し。

電話番町五百二十番　◎本號には熊本支部軍隊歡迎の光景を寫したる寫眞版を附錄とせり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

社會改良主義

貴族院議員 法學博士 桑田熊藏

▲予の社會改良主義　私が主張する所の社會改良主義は、經濟上より起る國家の缺陷を補充せんとするので、言葉を替へて云へば貧民を救濟する方法を講ずるのであります、社會主義などは國家の組織から變更して家を新たに建て直さんとするのと同一でありますが、私共の主義は家は其儘にして置いて、屋根に漏る處があれば是を防ぎ、床に毀れた處があれば是を修繕するのであります、要するに各個人の所有權の原理を認め、自由競爭の根本的理論を是認して、其の上で是を改良進歩して行かうと云ふのであります、獨逸では是を國家の力で行はんとし、英國では組合的の力で行はんとして居りますが、日本では何れの方面に於ても其の力が微々として振ひません。

▲婦人と社會事業　社會事業は婦人の力を待つことが甚だ多い、故に各國の婦人は競ふて其の事業の一部を擔任し、殊に慈善事業の如きは女性的のものであつて男子が爲すべき仕事の範圍でないとしてある程でありますが、吾が日本の婦人の勢力は未だ薄弱であつて、社會問題に接觸することが甚だ少ない、例之ば數年前に起つた自由廢娼問題の如き、工女虐待問題の如き、其の同胞を苦境から救ひ出すのでありますから、婦人社界が奮起して大に盡さなければならぬ筈でありますが、一人として是が爲めに起つて働いた所の婦人がありません。

▲筒袖で働く可し　日本に於ても婦人が近來社會事業に盡される事は國家の爲に慶賀すべき次第でありますが、苟も社會事業に盡すと決心した以上は、其事業に對しての趣味を持ち、只名譽であるとかお交際一篇の事でなく、眞實に熱心に働くのでなくてはなりません、愛國婦人會の如きも只華麗かな事柄のみでなく地味な仕事、賤はれたる仕事よりも隱れたる仕事、紋付を着て綺羅びやかに働くと云ふよりも、筒袖を着て汗を出して働くと云ふ風に、婦人の心が向つて來なくては完全たる事は得難い事と思ひます。

▲勞働紹介所　社會改良事業として爲すべき事は澤山にありますが、其內でも下婢を周旋する桂庵の如きは實に不都合極まつたものであるから、是を改良するは今日の急務であると思ふ、元來人を紹介する營業をなすと云ふことは甚だ不合理の譯で、外國では法律で是を禁じて居る處さへあります、日本の如く下婢を多く使用する國では、善良なる下婢を作ると云ふことが甚だ必要なことであつて、是を營業的に爲さず慈善事業の一つとして殊に同胞を救ふ一手段として、婦人の力に依て立派なる勞働紹介所を設けることが必要であると思ひます。

▲姙婦預所　下等社會の姙婦を預つて安全に出產せしむる所、即ち姙婦預所の如きものも亦た必要であります、出產と云ふことは婦人に取つて一大事であるに其の出產する場所を得ないで苦しむ婦人が多くあります、是等も慈善事業の一として、矢張り婦人の手に依つて救濟する必要があると思ひます。

▲子供預所　下等の勞働者が夫婦共稼をするに、子供があつては仕事が出來ないのみならず子供の發育を害して居る親達が多いから、是等の子供を日中勞働時間だけ預つてやる必要がある、是等も婦人の力で行ふべきことであると思ふ、現に京橋區では行ふて居るやうであるが、都會の地、亦たは工業の發達せる土地には、是非とも是を設くるの必要があります。

◎勸業銀行多賀義三郎氏　日本勸業銀行は零細なる金錢を集める方法として勸業債券を發行し抽籤方法を行ふて居りますが此抽籤に當る人は如何なる人かと調へて見ますと慾の深い人や又は當籤を非常に當てにして居るが如き人には決して當らぬのは實に不思議な次第であります山中の炭燒男に當つたり七八歲の少女にあたつたり致します扨て千圓の籤に當つたならばそれを如何に處分するかと金の往き先を調べて見ますに其內で二百圓位は近所近邊の人に飮まれて仕舞ひます運が强いと云ふので誰れ彼となく押し掛けて來て飮まれるさうです次の二百圓は一家內又は親族中に分配し餘儀なくされ百圓は慈善事業又は小學校等に寄附し愈々殘るのが五百圓であるさうであります此五百圓で再び債券を買ふ人もあるし我有として使用する金となるのもあります

英國土產

文學博士 高楠順次郎

▲英國人と吾寡婦　日英同盟が成立つてから以來、種々と我が國に同情を寄する英國人が多くなつて來ましたが、其の中で或る身分ある紳士の家庭では、日本の戰死者の寡婦中で相當の敎育もあり、將來敎育者を以て身を立てんとするの志あるものを引取つて、是れに出來得る限りの敎育を授けんとするの計畫を立て居るのがあります、其の家庭では妻君は生理學に精通し、長女は化學に熟達し、次女は音學に堪能であると云ふ風て、各々相當の專門的智識を備へて居りますから其の家庭に入れば別に學校に通はないでも、充分なる敎育を受けることが出來るのであります、亦た食事と雖も家族同樣なものを與へるから、格別の費用も要せずして、日本婦人、殊に戰死者の寡婦を敎育することが出來ると云つて、專ら其の準備に盡力して居りました、私が歸朝するまでには、未だ其の組織が充分に運ばれて居りませんでしたが、私共へ寡婦を越すやうに依賴して來た場合には、愛國婦人會の如き有力なる所に、其の人撰を賴らうと思つて居ります。

▲寄贈圖書三萬卷　日本に於ては英國の善良なる書籍を求むることが出來ぬために、從つて英國風の思想を日本人に注入することが出來ません、是れは甚だ遺憾なことであると思つて居りましたが、英國の家庭では家庭圖書の備附けが行き屆いて居りまして、何れの家庭に於ても容易に圖書を閱覽することが出來るのでありまして、また其の圖書は一代限りで決して子孫に遺すやうなことなく、圖書は積んで山をなし、其の置場に困ると云ふほどでありますから、この圖書を少しく貰つて日本に持ち歸りたいと思ひ、私共帶英中に此事を發企して新聞に廣告をした所が、思つたよりは非常な盛況で、寄贈を受くると數萬冊の多きに達しました、所が或る日本贔負の親切なお婆さんがありまして、其の所有の庫を圖書を入れる爲めに借して呉れましたので、こゝで善いのと惡いのとを撰り分け、終に三萬卷を得て持つて歸りました。

▲遺產壹萬五千圓　圖書を貰つた丈けではいかぬ、是れを藏ふ所の家を作らねば困るであらうと云ふので、また別に七十幾歲になる親切なお婆さんが出て來て、私が死だら其の財產の一部分、日本の貨幣で壹萬五千圓になる金を分けて遣らうと云ふので、遺言證を作つて私に與へて呉れましたが、是れは倫敦に在る私の友人が代理人となつて受取ることに登記をして置きましたから、遠からずして送つて來る事と思ひます、只其本を何處へ備へやうか考へて居る處であります。

◎向軍治氏　日本の婦人敎育は現今の高等女學校卒業位ゐの程度では我々の妻となり吾々の子の母となるには不十分であります少くとも是からの婦人は夫を監督し得る力を備へて居なくてはなりません假令へ監督する丈の力は無い迄も夫をして自己を尊重せしむる位ゐの力は必ず持たればなりません然るに今日では下等社會のみならず中等の家庭に於て相當の敎育ある男子でも其妻を打擲して憚からぬ事がありますが之は畢竟妻たる者の修養の力が足らない結果で自己を尊重せしむる丈の力がないからであります元來日本の學校敎育は實に不十分でありますから家庭に於て十分に敎育を其子に施されればなりません今日の如き學力なき婦人には遺子を托することが出來ません

▲英國は個人主義　英國と日本とは家庭の組織が大變に異つて居る、日本は家族主義であるが、英國は個人主義であります、夫れ故子が獨立すべき地位に達した時は、決して是れに保護を與へません、婚禮をするからとて親が補助して遣るやうなことは滅多にない、其の代り子が百萬圓の財產家になつて、親は乞食のやうな生活をして居ても一文の補助を仰がない、子もまた其貧しき生活を知りつゝ顧みて親を助けるやうなことはしないのであります、世界の競爭場裡に立つて商工業の發達を期せんとするには、この個人主義でなくてはいけませぬ。

▲日本は家族主義　日本は英國と違つて國體からして既に家族主義の組織になつて居ります、國家は一の大なる家族であつて、皇帝は即ちミカドと云つて、一門の主となつて居られ、我々の働くのはこのミカドのお爲になつて居るのであります、この思想は外國人には如何にしても作ることが出來ない、日本が戰爭をして常に大勝を占むるのは、この家族主義が大なる原因であると思ひます、其處で漸々この日本の家族主義を硏究する西洋人が殖へて來るやうになりました。

▲日本人の調和力　日本人は調和力と變化力に富む國民でありまして、創設的の事業は出來ませぬが、其の代り現にあるものを取つて我が有となし、是れを日本的に變化させる腕前は、歐洲人より慥に數等進んで居ると思ひます、故に英國の個人主義が入つて來ても、是れを家族主義と調和させて行つたならば、日本はますます繁榮の域に達するであらうと思ひます、而して是れを實行する所は、云ふまでもなく家庭でありますから、家庭の主宰者たる婦人は、能く兩者の得失を嚙分けて、健全なる家庭を組織することに留意せられんことを希望します。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

花爛熳

江戸　靜川

枕橋から言問かけて、白髭の奥に至るまで、綾織り出す錦繍の幔幕、彩霞の天井、歡樂の舞臺は日々に賑ふて、華車風流の都人士は、吾妻橋より、竹屋の渡場より、こゝの舞臺を目蒐けて潮の如く寄せて來る、衣香簪影、花より出て、花に入る盛装の佳人、花影浪に碎くる隅田の清流に棹して、微醺を帶たる面を川風に吹かせながら、管絃に興を遣る公子、借ては四十島田に十六の嫗、白髭に附髭の老若、孰れか美しからざるはなく、孰れか太平の民ならざるはない、向島は今花の盛りてある。

打ち鬧らした元祿好み紅白市松の幕の四方を、高く絞り上げた屋形船一艘、三味線太鼓に鉦の音、陽氣に囃し立てゝ、川上へ上つて行く、とまた川上から鯨の吼えつゝ疾走するやうな川蒸汽船が、堤の雜踏を避けて早歸りの花見客を滿載して下つて行く、動揺がずば紫匂ふ筑波の峯も映るぬべき水面は、是等往さ來るさの船のため、風なきにゆたり／＼と大波小波、川一ぱいに擴がつて、折柄の春の日影を受けて銀蛇を奔らせ、金鱗躍る。

其の川蒸汽船が下つて去つて、波の餘り舷側を打つ渡舟一艘、頽るゝばかりの人を載せて、今竹屋の渡しを長命寺前なる棧橋へ徐かに着けた、舟の中からは奇術師が帽子の中から手毬を投げ出すやうに、若き、老たる、吾れ先きにと揚つて行く、總ての乘客が揚り盡した其の最後に、毛糸の頭巾友禪の袷、スヤ／＼眠れる稚見を脊に、撞木杖突く良人を扶けて、危く棧橋に揚り立つたのは、芳紀二十二三の容貌麗はしい其の人の妻。

堤に上がれば、茲はまた舟に增したる混雜、纎弱い女の身て、眠れる兒を脊に足不自由なる良人の手を曳いて、如何にせば先へ進むことが出來やうぞ、進まれやう筈がない、今年は過る二年の征露の役に、花に辜負した都の人が、平和第一年の觀櫻てある、長堤十里、一寸の餘地も剩さぬ、歡樂の舞臺。

「然雖、折角こゝまて來たのてすもの、此儘歸つちや要らないわ。」

餘りの混雜に妻の苦心を察して、此儘歸らんと云ふ良人の言葉に、足自由ならば吾等親子を扶けて、この混雜押分け掻分けて花見ることの最と容易き身が、偕も憐れと亂るゝ心引き締めて、可能は半町が程にてもこの花見せて歸りたしと左思右顧、歸ると云ふ良人宥てある所を、通りかゝつて夫れと認めた一群の女學生七八人、少時其處に足を停めて、何か私々囁き合ふて居たが

「貴方御一所に參りませう、さア入らッしやいましな。」

と先に立つて、振の袖、眞白の手、高く捧げて聲優しう

「名譽の負傷を被成つた勇士てす、道開けて花を見せて進げて下さい。」

群集は俄に起る高く優しい聲に顧へつて、夫れと見るや女神の啓示を聽くかのやうに、靜かに道を開いて、この美しき女學生を先頭に、名譽ある勇士、優しき妻を通すのてあつた、如何に美しき光景なるよ、群集の心は皆ンな花に化したのてはあるまいか。

勇士―太田重郎は近衞の豫備騎兵一等卒、黒溝臺の會戰に敵の砲彈を受けて右足を失つたのてあるが、負傷當時の勇猛なる奮鬪は司令官の感狀と、從軍記者の精細なる通信とに依つて、閉塞隊の杉野軍曹と共に、其の名は戰史を飾るべく、深く國民の腦裡に記憶されて居るのてある、今日は戰地に病院に、三年越し見ぬ懐しの花を見るべく、國母陛下より恩賜の義足と、何某の貴婦人が寄贈の杖を力に、妻の阿澤に扶けられて、漸く此所まて來たのてあるが、花に狂ふては親き間も友もなく、吾れ一人興を擅にせんとするが人情の常套なるを、斯くまて吾れに厚くさるゝ諸人の情、仇にな思ひぞ吾が妻と、杖を停めて白髭の祠前、白雲紅霞、花爛熳たる下にイめば、誰れ見覺えて叫び出てけん、アレこそ黒溝臺役の勇士よと、前後左右を取圍く群集

「太田一等卒萬歳。」

「太田重郎君萬歳。」

聲は鯨波を作つて花の梢も搖ぐかとばかり、徐に散る花瓣兩三片、睦じく列むで立つた夫婦の身邊を舞ふて落ちた、恰も勇士と優しき妻の身に幸福多かれと、神の祝して天華を降すがやうに――。

この時脊なる兒の眼を覺して、無心に微笑む、花の唇頭。（完）

小魔の奏功（下）

トルストイ　著　若草　譯

富有共は緩々腰を据えて、そろ／＼手酌て初め、主人も一緒になつて、杯の數を重ねる。一同は主人の成功を稱讚へ、有ゆる追從輕薄をつくし、油のやうな詞て世辭を浴せかけて居る。

惡魔の頭領、耳側てゝ聞きすまし、滿悦の笑を湛えながら。「奇妙々々、此飲物が此奴等を全て狐のやう。各自に欺合ふやうにした。此奴等の運命は、遠からず吾等の手裡に落る哩。」

「まだ／＼、此の後の幕が面白いのてす。此奴等にもう一本飮ませて御覧なさい、今御上手つかつて居る狐共が、狼のやうな、飛んだ面白い芝居を使ふのてす」と。小魔が私語く。

農夫は又一本づゝを一同に配つた。一坐の物言ひは、早や惡態づくとなり、油の如き滑かな調子が、一變して互に嚙みつくやうに罵り合ひ、果は喧嘩となり、摑合ひ蹴合ひの大騷ぎ、誰とは知らず主人の農夫を引捉へて、「惡魔に往け」と喚き立ち、拳を上て揆りのめした。

惡魔の頭領いよ／＼興に入り「結構々々實に結構至極ぢや。」

「まだ／＼、此の後の幕が面白いのです。此奴等は三度目の酒にありつくが最後、氣違ひ狼見たやうな奴共が、今度は泥豚のやうに轉げ廻るのです」と、小魔が私語く。

農夫は三度目の酒を持出し、一坐たわいもなく、全く醉ひどれて了つたのてある。多衆わや／＼と噪ぎ立て、吠え合ひ、誰が何をいつて居るか、只わけもなく喚き散すばかりてある。やがて一人二人、又三人と連立つて、戸外に出て、よろよろと道傍に轉げては立ち、立つては轉げて居る。主人は客を見送に出て、泥溝の中に眞逆倒に陷ち、小豚のやうに泥まみれになり、ウン／＼と小唸に唸つて居る。

惡魔の頭領は最早此の上なき大滿足大滿悦てある。

「よくしてのけた、うい奴うい奴、成程汝の企んだ飲料は天晴なもんだ。汝の功は何時ぞやの握飯を受取るに十分だ。」

頭領も言葉を續け「汝は那麼して此の天晴きゝめのある飲料をこしらへたか、言つて聞かせい、俺が思ふに、汝は最初、百姓共を狐のやうにするため、狐の血を混ぜ、次に狼のやうに荒れ廻すために、狼の血を混ぜ、最後に此奴等を泥豚見たやうなザマにするため、豚の血を足したのてあらうが、那麼てやな、イヤ十分の成功ぢや。」

小魔恭しく「小奴の仕方は少し違つて居ります。首領御聞き下され。小奴は彼の百姓に、那麼かして使つても使つても使ひきれない程の、穀物を與へてやらうと、有ゆる手段をつくしました。獸類の血は現在何人の軀にも溜つてあるのです、が人間が辛うじて、其日々々を送つて居る間は、其血が出途を得ないのです、かうした時には、失くなつた握飯さへ、不平の小言にはならんのですが、此人に一旦其必要以外の、食物を有たせるが最後、彼は更に何等か肉體の快樂を得たいといふ慾心を起して來るのです、小奴は此機に乘じて、彼奴に飲酒といふ快樂を教へてやつたのです、案の定、彼奴は火酒の爲めに、大切のものを失くして了ひ、それに代つて、狐の血や、狼の血や、乃至豚の血が、ムク／＼と表面に現はれて來たのです。此後彼奴が酒を飲みさへすれば、何時も獸類になつて了ふが必定、最早生意氣な言をいふ心配はありません。」

惡魔の頭領は小魔の功を賞して、彼の握飯を歸し與へ、高き役目に登用ひた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

内助

幹事　浦月子

凡良妻賢母と云ふ事如何なる標準を守りてか成し得べき、おのれ常に思へることあり、只一つ正しき道を守りて實踐躬行に勉むる事之なり、古聖人のいはれたる、心の欲する所に隨ひて矩を踰えずと、其の域に進むは容易ならぬ事なれども、常に本心に問ひて誠に心の許すか否かは、相當の教育を受けたる人にて識別しえられぬことなかるべし、されば自然に矩を踰えざる迄に至らずとも、其の識別によりて少しも疚しき點なく、偏見をすて公平を旨とするを萬事に注意せば、身は如何なる災害にあふとも心は高潔に終るを得るなるべし、婦は夫を助け、内顧の憂なからしめんことを力むるは元よりさるべき事なり、又時に依りて事を謀らるゝに當り、斷乎として其の可否を助言すべき場合の如き、かりそめの事にも等閑ならず心を用ゐなば、彼の赤染衛門の才に及ばずとも、直ぐなる道を尋ねて小徑に迷はず、良人を助け子を勵まし、家の風をもあげつべきなり、そは常に良心に反かざらん事を戰々兢々として薄氷を踏むが如く、深淵に臨むが如くにぞあるべき、人各々天賦の性を備へたれば、其の外形の如く性質も大量小量様々なるべし、されど其の本は一つなれば、大きなる玉と小さき玉と、其の形こそ異なれ、いかでか磨きて光のいでぬ事やあるべき。

犬と家庭(上)

家畜病院長　入江濤吉

▲犬と人間　西洋の諺に「門前の犬の頭を撫てゝ見れば主人の氣質が知れる」と云ふのがあるが、犬ほど人間に感化され易い動物はないので、主人が温順な性質であると、飼はれて居る犬も至極温順で、頭を撫てゝも柔和にして少しも怒るやうなことはない、是れに反して主人が慘忍酷薄な性質であると、犬もまた殘忍酷薄な性質となつて、鳥渡頭に手でも觸れると、直ぐ齒を剝ぎ出して咬み附かうとする、夫れ故上流社會に飼養されて居るのと、圓滿な家庭に飼養されて居るのと、無教育者に飼養されて居るのとは、一見して直ぐ分かる、水が方圓の器に依つて何うにでもなると同じやうに、犬の性質は家庭に依つて善とも惡ともなる。

▲犬と家庭　犬は斯樣に人間に感化され易い動物であつて、家庭に於て有益なる動物である、金庫の番、盜賊の番、子供の守、狩獵等種々雜多の有益なる役目を勤勉に、正直に勤むるものである、其處で米國インデアナ洲のポリスと云ふ所には、犬を教育する學校が設けられてあつて、獵犬科、番犬科など云ふ課を設けて、澤山な犬を教育して居る。

▲夜の警戒　日本でも盜賊の番をさす爲めに犬を飼養して居る家庭が澤山にあるが、無意味に飼養して居るから規律の正しい警戒は出來ぬ、西洋では時計の鳴る音を聞かせて時間と云ふ觀念を犬に與へるので、夜十時の時計が鳴ると犬は己れの職務に就くべき時の來たのを知つて、夫れから夜の明けるまで一時間毎に邸内を見廻つて、雨が降らうと雪が降らうと決して怠ることはない、人間よりは正直に職務に服し、時間を嚴守する。

▲金庫の番　金庫の番をさすにはグレートラインと云ふのがある、この犬は金庫の開閉をする人を覺へて居て、左の胸間に徽章を附け、右の手に鍵を提へ、金庫より一定の距離に一度停立つて、而して金庫の前に進む人ならば、金庫の開閉について故障を入れぬが、若しこの制裁を破つて金庫の前に進む者あれば、主人であらうが細君であらうが關はない、制裁を破る不屆者と云ふ權幕て、行先を遮つて盛んに吠え立て、一指たりとも金庫に觸れさせない、職に忠ある者である。

▲義金募集　テリヤと云ふのは嫉妬深い性質を持つて居るが、また甚だ怜悧な質であつて、主人の顏色を見て事をする、例之ば主人が心配さうな面相をして居る時、思考に耽つて居る時、怒りを含むで居る時、夫々の顏色を能く識別して、斯んな時には成るべく傍へ寄らぬやうにして居る、また此の犬は怜悧な質であるから、義捐金の募集などに使用して好果を得ることが多い、夫れは東北の饑饉なら饑饉、癈兵遺族の救助なら救助で、其の義捐を募る主趣を書いた小箱を首に結び附けてやると、公園とか停車場とか人の多く集まる場所へ行つて、紳士淑女の前に、人間なら禮を厚うし辭を低うしと云ふ體で、喜捨金を入れて貰ふ、而して其の義捐に應じて呉れた人を能く覺へて居て、一度金を入れて呉れた紳士淑女の前には、決して二度と再び行くやうなことをしない、斯くて終日倦むことなく孜々として其の任務を盡すのである。

子供の日誌

久津見蕨村

▲子供の誕生から四五歳になる迄の間、毎日々々の事を日誌にして置きますのは種々の點に附いて利益になりますから、親御達は是非お試みなさるやうに致たい。

▲併し既に之をお試みになつた方もあります。又お試み中の方もありませう。其の中には子供自からが日誌をつけてをる心持て、親御樣がお附けになつたのがあります。志賀重昂氏の孃さんの日誌はそれです、又親御が子供を觀察なさつてそして夫れを一々日誌にされたのもある。高島平三郎氏の兒童日誌は之れです。

▲此二法の中いづれが宜いか、小生の考へる所では、子供自から書いてをる樣にする方法は、其の日誌の文章に趣味が生じて面白う讀まれるですが、併し之れでは親が子供の心の中を察して書なければなりません。即ち親が子供にならんければ出來ぬのです。作併實際大人は子供には成れません。ですから此方法の日誌はどうも甘くまゐりません。時には全く唯親の想像に止まることがあります。

▲又親が子供の生れ落ちてから、毎日の事を觀察しまして、夫れを日誌としますのは表面に現はれた所丈けの日誌といふに過ぎぬことがあります。笑つたとか、泣いたとか、くしやみをしたとか、轉倒だとかいふ丈けより書けぬことがあります、之れでも惡くはないですが、また決して完全とは云へぬのであります。

▲時に注意の足りない、學のない、親が此方に日誌を附けますと赤兒の中には唯啼いた、笑つた、嚔みをしたと云ふ事丈けより書けぬことになります。之れでは其の日誌は餘り役には立ちません。

▲それでは如何したらば宜いのか。獨逸の生理學者のプライヤルと云ふ人は、自分の子供が生れ落た日から以來三年間、明細に日誌を附けたです。其の方法を見ますと啼泣いたり、笑つたりした丈けのことを書くのではありません。皮膚(觸覺)は如何。眼(視覺)は如何。耳(聽覺)は如何。口(味覺)は如何。鼻(臭覺)如何。腹は減いて居はせぬか(機體覺)如何かと觀察しまして、其の樣子を一々日誌に附けるのであります。

▲ですから生れ初には、身體へは如何感じてをつたとか、耳は何日立つてから聞へたとか、眼はいつ頃から見えたとか云ふ事が其の日誌で略ぼ分るのです、之は其道の學者のした事故勿論立派で、他の人には眞似は出來ませんが、併し略ぼ此方を學んだら宜からうと思はれます。

▲世の親御達で兒童の日誌を附けてをらる、方や、附けられやうとしてござる方はどうか此方法に學んで精密な觀察で日誌を作られたいものだと思ひます。

嚴格なる我が家庭

統計局審査官　呉文聰

▲西洋思想　私の父は古く西洋の學問をして、嘉永二年の除夜に外國に遊んだ夢を見たとて「四十九年添二非、老來疎放與人違、自憐一枕陶然夢、不向郷園踰海飛」と云ふ詩を作つた程であります、又母の父は箕作阮甫と云つて常に西洋人をして日本に箕作阮甫あることを知らしむれば我が事足ると云はれた人で、西洋の學問を修めて世界的の思想を有つて居りましたが、家庭の組織は最も嚴格であつたと云ふことであります。

▲母の一言　今尚ほ私の耳に殘つて居る母の一言があります、それは母が年を老つて隙な身體であるから、私が一日芝居でも見にお出でになつては如何でありますと申しました、處が、母は端然色を正し、左樣のことがあつては地下の父母に對して面目を失します、と一言の下に拒絶されました、嚴格なることは總てこの類で、他は推して知るべきであります。

▲無藝の人　私の家庭では勝負事を一切禁じてありますから、家族一同カルタを採る方法さへ知りませぬ、又た糸竹管絃を聞くと云ふやうなことが滅多にない、故に皆な無藝であつて、家庭の娛樂を助ける器具と云ふやうなものは別に備へ附けてないが、家族は一同能く和合して少しの落寞を感ぜず、愉快に其の日を送つて樂んで居ります、日本の家庭には娛樂が缺けて居ると云ひますが、決してさうでない、音樂を聞かなければ淋しいと云ふほどに家庭は落寞なものではありません、家庭に於ける一同の精神が能く和して居りさへすれば、器具器械の力を借ないでも自ら春風堂に充ち、和氣藹々の家庭を作る事が出來ると思ひます、器具器械を備へ附けねば家庭の娛樂が得られないと云ふのは、要之家族一同の精神が融和しないから起るのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉評議員會　去る十一日午後一時より評議員會を開き第一號議案として會費一時納金は悉皆本支部の基本金に組入るゝ事に決定實行の處三十九年度分より規準外支部救護金中に含む一時納金丈け支部基本金に組入るゝ事に改正決議し尚靖國神社臨時大祭中の接待事項及第五回總會開會事項につき議事を開き午後五時頃退散したり當日の出席者は左の如し

理事 大山 捨松　監事 三井 苞子
評議員 阿部 篤子　伊東美津子　板垣 絹子
高木 富子　清浦 錬子　神山萬佐子　鳩山 春子
高木 鐵子　三井 照子　三井壽天子　有島 幸子
三井 晴子　三井 榮子　中山 中子　波多野爲子
税所 永子　仁杉 歌子　岩佐 鏈子　東郷 鐵子
郷 郁子　藤井とく子　澁谷ちわ子　大藏 松子
宇佐川種子　佐藤 猶子　小浦 鶴子　佐方 鎮子
後閑 菊野

◉第五回總會彙報　本會第五回總會を開く事は既に前號の紙上にも報告せしが其後決定せし廉々は左の如し

(一)時日　五月二十日
(二)場所　未確定
(三)會員拜觀所　來會者には例年の如く内藤新宿御苑小石川後樂園遊就館の外酒井伯爵邸大隈伯爵邸毛利公爵邸鍋島侯爵邸大學植物園尚ほ佩有功章者には御濱御殿御苑拜觀の義出願並に交渉せり
(四)會員休憩所　會場には夫れ〳〵會員の休憩所を設くる筈なり
(五)贈與品　來會者へは紀念品として扇子一本菓子一個つゝを贈與する事
(六)來賓　招待す可き來賓は先年の例による事と定めたり尚來賓には相當の饗應を爲す事
(七)餘興　陸軍々樂隊及太神樂
(八)評議員及幹事の幹旋　例年の通り各部を分擔し徽章を以て其部員の區分を爲し會員の爲に斡旋の勞を執る事

◉遺族接待　五月一日より擧行せらるゝ靖國神社臨時大祭中參拜遺族接待方につき其後確定せし事項は左の如し

(一)茶菓接待席設置　牛ヶ淵公園内に天幕拾五個を張り各天幕に其受持員を定め接待に從事する事
(二)餘興　近衛軍樂隊を招き接待所の餘興と爲す事
(三)紀念品贈與　煎餅を袋入として配り戰捷地圖等を贈與する事
(四)職員事務の分掌　評議員幹事方は二分とし一は神社に於て紀念品贈與の事に盡力し一は公園内接待所に於て遺族の慰安を計る事
(五)共同接待　本部職員は素より東京支部職員及近縣支部職員へ通知を爲し共同接待に從事する事
(六)接待員の辨當　本會自炊とし質素なる食事を準備する事に定めたり

會告

來る五月二十日(日曜日)東京に於て(場所未確定)本會第五回總會相開き候間御出席被下度候也

愛國婦人會

愛國婦人會々員御中

◉靖國神社祭典　同祭典の際遺族に贈與すへき御菓子は一應神前に供したる上之を袋に配分するに九万個の多數を要するよしなるが祭典委員より本會に交渉し來り神聖なる供物なれば之を貴婦人の手にて袋に分ち入れられん事を希望する旨依賴し來りたるを以て本會は之を受諾し來る二十日頃より本部樓上に於て本部職員及東京支部職員之が配分に盡力せらるゝ筈なり

◉汽車汽船賃割引　本會總會に出席せらるゝ本會々員には汽車汽船賃の割引を爲す特約を結びたれば來會者は各府縣の本會支部及幹事部に就て割引證明書其他詳細の事を問合す可し

◉近衛師團追吊祭接待　近衛師團の戰病死者追吊會は去る十四日青山練兵場に於て執行されたり當日は天氣麗かにて霞込めたる青山の式場には遺族の集まる者約四五萬の多きに達したり我が會よりは遺族の接待として大山谷理事を始め評議員東京支部幹事出席の上將校遺族の天幕と下士卒遺族との天幕に別かれ遺族の接待に盡力せられたり今其接待の模樣を記さんに接待所の入口に於ては本會より寄贈の菓子及び戰捷地圖を一人つゝに手渡されし模擬店の趣向は當日恰も園遊會の如き設計にして各天幕中におでん、酒、ビール、汁粉、壽司、菓子店等を設け遺族をして各々十分に飲食せしむる仕組なりしが此店には一々店員ありて我會員の周旋を要せざりしが之に隣りて休憩所の天幕あり此處は遺族が辨當を開き又は模擬店より飲食物を取寄せ飲食を爲す所なるが此天幕に於て我が會員は最も善く盡力せられ遺族に一々御茶を汲み與へ小供の世話より老人の世話に至るまで懇切丁寧に盡されし遺族は限りなき滿足の情にうたれたるを見受けたり午後一時頃淺田近衛師團長は一群の將校を從へ將校接待所の我が婦人會員席に來られ谷理事三井監事始め一同の婦人に對し今日の接待を深く謝する旨を陳べられたり尚當日出席幹旋せられたる人名は左の如し

理事 大山 捨松　谷 玖満子　監事 三井 苞子
評議員 板垣 絹子　佐々木貞子　伊東美津子
山地 鐵子　西 美花子　大寺 常子　神山万佐子
高木 富子　黒木 百子　松平須磨子　千家 俊子
岩佐 鏈子　鳩山 春子　高木 鐵子　南部 柳子
酒井 春子　鍋島 文子　大藏 松子　東郷 鐵子
税所 永子　松村 雪子　宇佐川種子　有島 幸子
佐藤 猶子　大迫 隆子　窪田せい子　小浦 鶴子
仁杉 歌子　郷 郁子　仁尾 繁子　澁谷知和子
藤井とく子　内山 鋼子　三井五十子　三井壽天子
三井 照子　三井 晴子　三井 榮子
東京支部幹事 飯塚 里子　岩佐千賀子　若宮よね子
吉野 信子　田口 さだ　奈良林もよ　守島亀代子
星野たき子　石塚 於菅　長谷川小枝　羽田三緒子
工藤あい子　四 里子　堀内ゑん子　招崎 愛子
小野よし子　和田せん子　金田せい子　高田 花子
川崎 安子　横幕むら子　中村 銑子　村田 歌子
上原ろく子　黒田 雪子　山上 淑子　松平 錫子
丸山すま子　松崎 悦子　牧田ます子　國原 錬子
郷 もと子　江崎うた子　相澤かま子　笹岡きち子
三枝よれ子　岸 かれ子　白石 菊子　鹽谷万壽子
濱 道子　下瀬勝千代　日原しま子　東村 米子
關 万代子　鈴木とよ子　岡村 保子　村上登茂子

◉癈兵の就職　日露戰爭組にて征露の役に從軍し旅順攻擊に參加し三十七年五月敵彈の爲めに左足を擊たれ膝關節より切斷終に癈兵となりたる元海軍二等水兵鶴岡義平氏は昨年五月靖國神社臨時大祭の節遺族代理として參拜し本會の接待所に來り種々の物語をなしたるが縁故となり其志操の堅固にして毫も倨傲輕浮の情なく尚ほ奉公の意志壯烈なるを感じ本會の書生に採用したるに筆蹟も拙からず高等小學以上の學力あるを以て永遠に安堵すべき相當の職に就かしめんと陸海軍兩省へ推薦し置きたるに本年一月書生として陸軍省に採用せられ更らに三月に至りて海軍省軍令部に採用せられ月俸拾圓を受くるとなれり是れ固より本會の斡旋に基く事なれども又本人の志操堅固なる能く人を感動せしむる所あるに依らずんばあらず同人は深く本會の恩誼に感じ報酬として相當の職あらば夜間なりとも務めたしと云ひ居れり

◉入會美談　肥前國東松浦郡〇浦村畑中三太郎氏の妻イシ子爲人温厚篤實にして夫と共に日雇稼を業とし傍ら養鷄を副業として漸く口糊を凌ぎ居る有樣にて素より餘裕のあるべき身ならざるに去る頃同村東光寺に於て本會遊説員奥村富樫の二氏熱誠なる戰地視察談及び本會の主旨を講話せられしを聞き感憤措く能はず元下女として雇はれたる主家川添氏方に奥村氏の一行宿泊せられしを幸ひ同所に一行を訪ひ一時に多額の出金こそ貧賤の身に困難なれど僅か日に三厘弱の節約をなし醵金を充すとは易ければ是非共入會致したしと乞ひ同夜直ちに金貳圓を添へて通常會員の申込をなしけるに居合せたる役場吏員は勿論奥村氏の一行も其の美しき心を嘆賞し早速其の手續を了したりと實にイシ子の如き他の模範となすに足れり

◉佐賀支部遊説日誌(四)

奥村五百子刀自一行

▲二月二十八日　晴　午後二時より成美女學校に於て生徒の爲め講話會開催同校生徒初め師範學校生徒參集共數約五百餘名江頭校長開會の趣旨を述べ次に例の如く自分と奥村女史と講話し午後五時閉會

▲三月一日　晴　奥村先生午前十一時四分佐賀驛發の列車にて臨席せられたり自分は伊東事務員同行南山村へ赴きたり川上村にて小城郡幹事部より出張の辻幹事部長鍋島中島兩幹事今泉郡書記と落合ひ同行して南山村に到り午後一時半同地着旭館に投ず

▲三月二日　雨　午後二時半より一諦寺に於て講話會開催聽衆約二百餘名村長開會の趣旨を述べ次に自分講話し約二時半講話し五時閉會せり

▲三月三日　晴　午前八時今泉郡書記先發北山へ赴かれたり同十一時幹事部長を初め一行は北山へ赴きしに嘉村村長會員は途中迄出迎はれたり午後二時到着同三時より小學校に於て開會聽衆約八百餘名村長開會の趣旨を述べ次に自分講話五時半閉會せり此夜吉田方に宿泊す

▲三月四日　晴　午前九時同所出發唐津へ向ひたり午後一時着奥村先生方へ投じたり

▲三月五日　曇　本日は東松浦郡遊説の準備の爲め休會せり

▲三月六日　曇　本日より東松浦郡遊説の緒に就き即ち午後二時より唐津町劇場に於て開會の處當日は非常なる降雪にて寒氣も一入強く來會者如何を氣遣ひしに果して漸く百五十餘名の來會者なりき三時に至り開會原田郡長開會の辭を述べ次に自分と奥村女史と例の如く講話し六時閉會

▲三月七日　曇　午後二時半より唐津町淨泰寺に於て開會聽衆約八百餘名郡視學役場吏員大に幹旋の勞を執らる佐藤氏郡長に代り開會の趣旨を述べ次に自分と奥村女史と例の如く講話し六時閉會

▲三月八日　晴　午前九時より奥村女史同行湊村に赴きたり加藤幹事部事務員は諸般の準備の爲先發せられたり同村幹事會員並に有志浦田氏は樂隊を率ゐて途中迄出迎はれたり正午着浦田氏方にて餐饗を喫し午後三時より妙真庵に於て講話會開催聽衆約千餘名樣棄村長開會の趣旨を述べ次に自分と女史と例の如く講話し六時閉會夫より石崎旅舍に到り宿泊す

▲三月九日　晴　午前九時出發呼子村へ向ふ湊村よりは片山樂市川の三氏見送の爲來られたり呼子へ着したるは十時頃なり藤本村長渡邊收入役有志山下氏等來訪せられたり會員案内方につきては同地警察署員等幹旋せられたり午後三時より同村小學校に於て開會聽衆約三百餘名村長開會の辭を述べ次に例の如く自分と奥村女史と約三時間講話し六時半閉會せり同村は會員僅に數名に過ぎざれども同村小學校長佐藤哲三郎氏は今後會員募集に專ら務むべしと誓はれたり

▲三月十日　午前曇天午後雨　午前十時旅舍出發名古屋村へ向ひたり渡邊收入役旅に書記見送られたり呼子港より船出して海上約二里を航し名古屋村へ着大福屋方へ投す夫より同地の有志松尾氏を訪ひ同行して秀吉の古城(俗に千疊敷と云ひて即ち本丸の跡)を弔ひ夫より歸宿午後二時講話會場なる小學校に到りぬ二時半より開會聽衆約九百餘名松尾氏開會の趣旨を述べ次に例の如く講話し六時閉會せり

▲三月十一日　曇天　本日は名古屋村より値賀村へ赴くべきの處昨夜來の雨風の爲め海上甚だ危險の虞あるにより陸行することに決し午前九時過一行は旅舍を出て奥村女史は藁草鞋を穿ちて步行せられたり本日の行程約二里と聞きしも險惡なる山を三四ヶ所越ゆるが上に雨後のことゝて泥土の滑かなる譬ふるに物なく女史の草鞋跡は殆んど二尺斗の長を殘す位にて勾配の急なる阪路を降る一層の危險を感じたり串の浦より舟にて彼岸なる外津へ航し夫より又八丁斗の道程を登り降りして遂に値賀村に着たり時正に零時二十分頃なりき黒岩村長を初め總永助役同村小學校長今泉氏假屋村小學校齋藤氏黒岩幹事楠田秀島兩會員外數名來訪せられたり黒岩村長は奥村女史の爲に籠を持たせ迎ひに出されたるよしなれども道行違ひの爲め殆んど無効となり村長は甚だ遺憾の思をなし居れり午後三時より普恩寺に於て講話會開催聽衆約三百五十餘名村長開會の辭を述べ次に例の如く講話し六時半閉會せり此夜同寺に泊す村長は非常に周旋されたり(富樫眞寄子記)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎各地支部狀況

▲富山支部　同縣に於ては本月七日縣廳構內に於て日露戰役の爲に忠死せし軍人二千五百餘名の招魂祭を執行せられ支部幹事以上の職員へは當日式場の參列を許されたるに依り同支部に於ては靈前へ紅白の大鏡餅と神式には榊一對佛式には蓮花の造花一對を備へ尚參拜遺族慰藉の爲めに式場附近へ休憩所を設け茶菓の饗應を爲せり其概況を報せんに當日は近來稀なる快晴にて遺族の參拜者數千名朝來雲霞の如く寄せ來り一時は休憩所內立錐の地なき程雜踏を極めたるも職員諸氏の熱心遺族の慰安に努め菓子を與へ茶を進め或は手荷物の世話を爲す等懇切に斡旋せられたるを以て遺族に於ては休憩所內配置の腰掛に三々伍々相集り快語せる抔如何にも心地好げにて大滿足の體に見受けられたり尚當日は發企者の依賴もあり職員諸氏手分して遺族へ贈與する折詰等の配與に從事し大に奔走盡力せり尚翌八日は富山市出身凱旋軍人歡迎會には富山市擔當幹事以上職員出張凱旋軍人に紀念木杯一個づゝ贈與せり

▲長崎支部　同支部第三回總會は去七日西山高等女學校體操場に於て開會したり式壇には總裁殿下の御眞影を奉掲し後藤主事開會の辭を陳べ藤脇善政氏會務報告をなし次に顧問荒川知事登壇「予は總裁宮殿下令旨代讀の光榮を得たり」と述べて御令旨を奉讀し次に支部長荒川菊子氏答辭を朗讀し次に有功章を贈與し次に戰病死者癈兵遺家族七十七名に對し總裁殿下よりの特別賜金を授與するや斯の優渥なる恩典に浴したる各家族は只管感銘落淚する者少からず終りて奥村五百子氏の演說支部評議員正木照子同松永せい子氏の祝詞ありて閉會を告げ休憩室に於て茶菓の饗應あり此外階上にては數番の餘興等ありて頗る盛會なりき

▲東京支部　同支部京橋區幹事部にては去る三日午前十時より築地本願寺に於て同區內出身の將校下士卒にして戰病歿せる百三十名の爲めに追弔法會を營みたるが閑院宮第一師團長殿下御名代を始めとし遺族來賓會員等無慮三千餘名に達し衆僧の讀經に次いで男爵夫人高木富子氏弔文を朗讀し次に中澤府會議員長谷川區長其他數氏の弔文朗讀あり松浦貞憲師の白骨の御文章朗讀及び法話、遺族參拜者の燒香にて式を了へ別室に於て午餐の饗應あり夫れより餘興に移り講談、落語、薩摩琵琶、能狂言等の催しあり午後四時散會したり又北多摩幹事部にては軍人遺家族中の貧困者を救恤するため去る七八の兩日府中町高安寺に於て慈善演藝會を開催したり

▲愛媛支部　同支部長安藤菊子氏は顧問安藤知事と共に去月丸山主事を隨へて松山市內の戰死者遺族出征軍人家族中の貧困なるものを慰問し夫々金員を與へたり又た左の諸氏は今回總裁宮妃殿下より幹事部顧問並に幹事部長を囑托せられたり

顧問　新居郡長田中瀧三郎　幹事部長　夫人ミヱ子
顧問　伊豫郡長倉根是翼　幹事部長　夫人トモ子
顧問　南宇和郡長渡邊綱明　幹事部長　夫人ヨツ子
顧問　上浮穴郡長放島桂太郎　幹事部長　夫人照子

▲熊本支部　同支部にては今回支部經費及び救護金內の內へ左の通寄附ありたり

△一金五拾圓（救護金內へ）上益城郡甲佐町會員△一金拾圓（經費の內へ）支部副長飯田政子△一金拾圓（同）支部副長岡村多滿子△一金七圓五拾錢（同）幹事原鈴子

▲群馬支部　同支部前橋幹事部にては去る一日總會を同地師範學校講堂に於て開會し本部よりは岩倉會長代理として評議員濱尾作子氏野中彌知子氏と共に臨場したり式後野中氏の戰地視察談あり尚ほ臨江閣にて數番の餘興催し等ありて頗る盛會を極めたり

▲秋田支部　同支部にては會員主唱者となりて有志者より雜誌其他の物品を募集し是れを滿洲滯在の步兵第十七聯隊へ寄贈したるに今般井口聯隊長より淸野支部長へ宛て懇篤なる謝狀を寄せられたり

○花のあした月の夕への遊びにもてよなき友は琴にぞありける
京都　渡邊豐子

○かきならすしらへ妙なる琴の音に嵯峨野の昔しのはるゝかな
京都　難波良久子

○松風の聲かあらぬかおぼろ夜のふけゆくまゝにすめる琴の音
東京　鈴木菊子

○かなてつるそのつま音のゆかしさにものうきこともわすられにけり
茨城・福田喜代子

○たのしきも憂きもしらへにあらはるゝ玉の小琴そあやしかりける
東京　長鹽錠子

玉たれのおすの中なるつま琴は　いかなる人のしらへなるらん
青森　佐藤楓子

○かきならすいとも妙なる琴の音に　天津をとめも舞ひ下るらん
茨城　綿引馨子

○のとかなる霞の中をわけゆけは　花さく里に琴の音きこゆ
東京　小原花子

○春雨のふりくろ夜半の靜けさに　きくもゆかしき琴の音そする

大阪　富永才子
○月花のなかめにそへてたのしきは　八雲のことのしらへなりけり
函館　神尾登女子
○おもしろくおぼろ月夜にきこゆるは　たかつま琴のしらへなるらん
愛知　市橋幾子
○いよすたれかけはなれてもかくれなき　玉のをことに心ひかるゝ
山梨　芦澤雪子
○手弱女かしらふれやの琴のねに　こゝろひかれぬ人やなからん
岡山　貝原壽惠子
○玉の緒のたえぬかきりはうきことの　なりにふれては音にそたつらん
愛知　平松いと子
○きゝなれぬこの山里につま琴の　しらへやたれのすさひなるらん
京都　花輪余志野
○ゆかしさにきけはこゝろもはるの夜の　いとしつかなるやまと琴の音
東京　小島幹子
○つま琴のたかきしらへになにとなく　その人までもしたはるゝかな
兵庫　乾榮子
○たかとのゝしらへ妙なる琴の音に　雲間の月もすみわたりけり
函館　龍岡とし子
○咲く花の梢にかすむ月の夜に　ねもおもしろく琴そきこゆる
山口　末田貞節子
○さえわたる月にしらふる琴のねの　かよふも嬉しみねの松風
北海道　大和智勢子
○山里にかくも妙なる琴の音は　いかなる人のすさひなるらん
東京　岡田春子
○たかとのにうたけやすらしさくらちる　夕への風に琴の音そする
北海道　西久子
○巢こもりの鶴のねなから松風の　しらへこめはや玉の小琴に
靜岡　青木絹子
○琴のねの月の夜ことにきこゆるは　たかかきならすしらへなるらん
長野　高橋淸子
○ひとつやの袖垣もろゝつま琴は　たかしのひねのしらへなるらん
青森　田島正子
○垣こしに妙なるこゑのきこゆなり　たか玉琴のしらへなるらん
函館　佐多益子
○おぼろにも月影かすむ春の夜に　たか手さみの琴のしらへそ
東京　岩元美子

▲投稿規定▼

一、原稿は總て楷書にて明瞭に認められたき事
一、短文、和歌、俳句は夫れ〳〵別紙に認める事
一、和歌、俳句は相成べく葉書に認められたき事
一、一封筒又は一葉書中へ連名にて原稿を同居させぬやう致したき事
一、原稿には必らず住所姓名を明記されたき事
一、締切期日以後に投稿さるゝ方尠からず、右は甚迷惑に存じ候まゝ期日を堅く守られたき事

群馬　伏島たき子
○たらちねの母のかたみのふることを　かなつる袖そつゆけかりける
青森　鈴木やす子
○おくふかき木の間もりくる琴の音は　世をへたてつる人のすむらん
東京　奥村陽子
○かじめこかかなつる琴の音にさへ　君か八千代はこもるなるらめ
東京　濱田直子
○月見れはすきし今宵のしのはれて　そとかきならす須磨の一曲
青森　丹澤善子
○かきならす琴のしらへの月影に　かよひていよゝすみ渡るらん
岡山　谷とめ子
○友とちと手なれの琴をかきならし　なかき春日を暮しける哉
山形　阿部さゐ子
○中空に月もかすみてきこゆるは　たかつま琴のしらへなるらん
函館　内山郁子
○月影に夜ふけてさゆる琴の音は　たかおもひ出のすさひなるらん
東京　五藤敏子
○つま琴のしらへのとかにきこゆなり　桃の花ちる雨の夕暮

東京　瓜生保子
○おぼろ夜に誰かすさふらん琴の音の　しらへゆか[illegible]なり
靜岡　萩原さだ子
○何人のすみかなるらん柴山の　うちそゆかしき[illegible]へは
福島　伊藤靜子
○おぼろ夜のふくとしもなき春風に　琴のしらへやいつこなるらん
三重　諸戸常子
○つまことのしらへあはする音すなり　あたゝかき家のまとゐなるらん
愛知　山田しづ子
○松風にかよふ小琴のゆかしきに　しばしあゆみをとゞめける哉
京都　磯谷澪子
○かきならす小琴のしらへしつかにて　をさまるみよの幸そしらるゝ
京都　金澤牧子
○神代よりつたへ傳へし琴の音を　今もかはらす繰りかへしつゝ
東京　吐鳳こう子
○琴の音をいかにきゝけん鶯の　一聲きよくなきにけるかな
栃木　景均子
○月影のすみゆくまゝに琴の音も　みそらにひゝくこゝちこそすれ
鳥取　近藤しづ子
○をちかたの友のしらへに似たるかな　たえ〳〵もるゝつま琴の聲
千葉　小熊たま子
○たかれなる松ふく風とおもひしに　たえ〳〵きこゆつま琴の音
三重　玉置美津子
○かきならすそのつま音のゆかしさに　あるしの君かしたふなりけり
宮城　渡邊佐久代
○たかとのゝ琴のしらへの妙なるに　月もよとますかほろなりけり
埼玉　山崎匡子
○たか君をなくさめまつるすさひかも　花見かへりに琴の音をきく
石川　新田暉子
○戰の勝ちし祝ひを音たかく　琴のしらへにきくそ嬉しき
兵庫　下岡松枝
○神代よりつたへしらふるつま琴は　いかにゆかしくきこえぬるかな
埼玉　加藤美代子
○ほとゝきす聲きゝつゝも友かきと　琴しらへ合ふ今宵たのしも
島根　江角靜子
○ふく風にゆかしきねさへきこゆなり　たかつま琴のしらへなるらん
埼玉　森田竹子
○歌かたりいとものとけき春の夜に　琴のねさへそきこえきにけり
京都　渡邊よれ子
○たゝかひもはてゝのとけき春なれは　琴とり出てかなてゝそれみん
京都　渡邊とき子
○しつかなるみよとしなれるこの春は　琴とり出ししらへてそみん
埼玉　水野淑子
○おぼろ夜の月にうかれてさまよへは　花ちる門に琴のねそする
東京　三宅ひさ子
○山水もてつくれる琴のしらへには　風のかよひになりわたるらん
富山　草野柳子
○つま琴の音色かなしとたゝすめは　今宵別れの調なるらん
函館　川口小蘿
○月はさえ人しつまりしこの夜半に　妙なる琴の音そあはれなる
靜岡　大石とせ子
○垣根こしもるゝ琴の音耳にして　ゆきつもとりつ夜はふけにけり
長崎　田中靜子
○をとめ子かかきならすらんつま琴の　音もさえわたる月の夜半哉

▲投詠數　五百十二首

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

▲春の夜　埼玉　森田竹子

七重八重、花は咲けども實の一ッだに結び得ぬ山吹淋しう笑める垣穗崩れて、軒傾ける破屋より、チラ〳〵漏るゝ火影に人の聲も聞へつ「後生なるぞ我が母、其金分ち給へ」と若者云へば「何？、何とや、金欲しとや、汝は今用なき婆、何地まれ去ねと罵りしに非ずや、こは此憎らしの婆が痩腕もて辛くも作り出せしもの、汝摑まば手や汚ん」と老いたる母は罵り返す「否とよ、开は心にもなき戯言ぞ、許し給へ」と微笑みつゝ、打詫る狀の可笑きに、婆呆れて呵々と笑へば、妹又隣室にてホヽと忍び笑ふ、月は朧の霞隠れに。

▲選者曰　情景双美双絶、短文壇の女王

▲勤勉　大阪　富永才子

古語に曰はずや、勤勉は幸福の母也と、凡そ何事にまれ一事を成さんと欲すれば先づ以て勤勉ならざる可らず、勤勉の花を養はずしていかてか成功の實を結ぶべき、苟も志を立てゝは半途にして止むべきに非ず、如何なる難局に逢ふとも勤勉の二字もて戰はんこそ本意なれ、斯の如くして怠ること無くんば、如何に意地惡き運命の神と雖も、遂には征矢を捨てゝ希望の的に當らしむるものぞかし、さるを世にはこの理を辨へず、又しても今日なすべき事を明日に讓り、而も己の其の怠慢は咎めずして、業成らぬ曉、罪を運命に歸する人の多きぞうとましき。

▲選者曰　筆ます〳〵老熟、賴母敷かな作者の前途

▲訣別　埼玉　水野淑子

調度の類さへ年久しく使へるは、手放すことの最惜きを、是はまた姉とも賴む君の遠く故郷に歸り給ふ悲しさ、宛然盲の杖失ひたるが如し、定めなきは人の命と聞くものを、また逢ふことの覺束なければ、寫眞に殘し置かばや諸共に、髮尚ほ黑き今の姿をなど我は願ひ、いざ友よ、花の木蔭に立寄りて、また逢ふ春を契り置かばやと君はの給ひぬ、されど其機會もなくて停車場に涙の袖を分つ時は來れり「山川を隔て住むとも隔てなき心交さん文の便りに」など僅に心慰むる折しも、泣けよと傳ふる汽笛の音、あゝ君は終に此里を離れ給へり、悄然として我家に歸る畑道に、尚は懷しきは彼の響ての煙。

▲選者曰　友愛の情寫し得て妙

▲亡き兄　山梨　蘆澤雪子

櫻は咲きぬ、爛熳たる美しの詠め哉、然れど賴み難き夜半の嵐一度至れば、無慘や一夜のうちに散り果てゝ、昨日の榮え見るべくもあらず、榮枯盛衰如何に人事の夫れに能く似たらずや、四年の前、吾が兄上は不圖せし病の床に就き給ひしより、心を罷し母上妾の看護も其の甲斐なく、あはれ白玉樓中の人となり給ひぬ、朝の紅顏夕の白骨、免れられぬ人の運命と諦めても、花見る度に思ふ哉、櫻は散れど復た來む春に咲くものを、吾が兄上は、青苔滑らかなる墳墓の下、永劫の眠りより覺め給ふの時なきぞ悲し。

▲選者曰　亡兄を懷ふの情綿々として盡きず

▲落椿　静岡　山口萬壽子

落たるを拾ふも、咲けるを手折りて夥多糸に聯らねたるも、とり〳〵に嬉しと持て遊びしは夢よ、こぼるゝ狀のあはれさ身にしみて、再びこの花の梢にもと覺えそめしは、什麼いつの程よりぞ。

▲選者曰　洗練

▲雨後　群馬　伏島たき子

昨夜の雨がやむだと共に、今朝は氣分も晴れ〳〵しいので庭へ出て見ると、さも嬉しさうに雀は喧しいまで囀り交して居る、梅花はモウ散り果てたが、雨に浴した梢の姿が神々しい、僅か見ない間に牡丹の芽も大きくなつた、菖蒲も伸びた、海棠も色づいた、彼方此方と見廻はつて居ると、病後の疲れも忘れたやうて、何にか一首と冥想に耽り始めた折もをり、本屋の椽で伯母さん〳〵と姪が呼び立てるので、折角浮みかけた歌の腰を折られて了つた。

富永才子

▲選者曰　舊體を脱し清新なる韻致となりしは可

▲月の瀬　愛知　石川類子

空晴れ渡り長閑なるまゝ、弟と共に梅見のいそぎして月の瀨にものしぬ、盛りならんと思ひし梅はまだ一週間ほど早けれど、今宵は月に明かさんなど思ひしに、思ひきや俄に雨の降り出でんとは、あはれ空しく歸り路につき、島原より汽車に乘り、見れば何時しか空は晴れ渡り、月影の朧に匂ふも、なか〳〵にうたてき限りになむ、思ふこと違ひ行く世の習ひとは云へ、斯く迄とは思はざりけり。

▲選者曰　月、花に譬へつべき美しの筆●

▲理想の花　東京　濱田直子

詩人曾て謠ふて曰く、敷島の大和心を人問はゞ朝日に匂ふ山櫻花と、眞に櫻は我が國理想の花なり、紅に明くる春の朝、風静かなる朧月夜の詠め、壯美幽艷の極みを盡す、而も其の散り際の潔き、更らに一段の壯と美を加ふ、櫻花なる哉。

▲選者曰　原文は餘りに冗長なりし

▲鶯聲　鳥取　近藤静子

碧天麗かに、尾上に續く松の綠、彩霞を纒ひて艷美なる姿を見する彌生の半ば、終日樹間を漏れて聞ゆる鶯聲の、長閑さ何に譬へむものもなし、都にはまだ初音だに聞き得ぬ人の多からんに、斯く日毎に樂しき聲を聞く、山を背後に野を前に、田舍住居の幸多き哉。

▲選者曰　羨ましきは作者の身の上かな

▲花つなぎ　山形　阿部さゐ子

愛國婦人第百號の六ページに、房々した髮をお下髮にして、幅の廣いリボンで夫れを束ね、今しも花を繋いで居る少女がある、其の姿の愛らしさ神々しさ、活きて居るのではないかと思ふやうな氣がする、我を殘して唯だ一人、去年天國へ行つた姪も生きて居たならば、齡の頃も恰度同じ十二三、彼の活々した顏をして、我が膝に凭れて美しい花を繋いで喜むで居たであらうに、嗚呼、今年は誰と倶に花を繋いで遊んで居るであらう。

▲選者曰　一讀涙の下るを覺えず

▲希望　東京　鈴木芳枝子

天眼嬉々たり明星の瞬き、颯々たる曉風面を吹いて、希望の光り東天に輝けば、終夜の懊惱一時に去る、爽快何にものか是れに譬む、心地よき春の朝よ。

▲選者曰　韻致また希望あり

▲選者曰　選外東京梶村恨子、同橋詰米子、福井吉田馨子三姉の作また面白く拜見したり

俳句

天　廣島　白井政子
青葉して富士は一きは聳へけり

地　東京　伊庭政子
千丈の瀧恐ろしき青葉哉

人　京都　渡邊よね子
嵐吹く日の待れけり青葉山

青葉もる日の影鯉に呑れけり　東京　平井千賀子
青葉して仁王の色の目立けり　東京　宮貝まつ子
三日月の隱れて出たる青葉哉　山形　阿部さゐ子
御佛に供ふ枝なき青葉かな　埼玉　加藤美代子
御酒宴の絹羅洞や青葉陰　青森　清水秋子
瀧音を圍む青葉の茂りかな　東京　鈴木芳枝子
接木せし枝にうれしき青葉哉　青森　中田竹子
常に見ぬ端山も深き青葉かな　北海道　本田勝子
祠あり清水も出てゝ青葉かな　東京　押田學子
反橋の半に出たる青葉かな　東京　川村誠子
青葉吹く風のこたまや瀧の音　新潟　高木しつ子
窓の灯のちらつく雨の青葉かな　東京　白井いし子
三年まへ手植せし樹も青葉かな　東京　木下こま子
笠ぬきて休む路邊の青葉かな　岡山　木下竹子
千木高き伊勢宇治山の青葉かな　埼玉　水野淑子
道端の青葉に地藏埋れけり　富山　草野柳子
朝戸出や青葉の陰のひやゝかさ　埼玉　森田竹子
湯上りに見直す山の青葉かな　函館　佐藤かつ子
水鏡のどけき空や青葉時　札幌　石田惠和子
小夜更けて月影宿る青葉哉　東京　濱田直子
陸ゝ我物顏に青葉哉　愛知　市橋幾子
小提灯さげし茶店の青葉哉　東京　河村江都子
そつくりと水に寫して松青葉　北海道　小林米代子
春日野も青葉に匂ふ社かな　宮島　小田信子
こきうすき青葉に雨のふるかな　福島　伊藤静子
降る雨に野山色增す青葉かな　東京　松苗雪子
花待ぬ人こそなけれ青葉時　東京　大澤幸子
青葉して富士は扶桑の國柱　東京　中山八重子
須磨寺のふく笛すゞし青葉陰　兵庫　乾榮子
海原の境ひの付かぬ青葉かな　東京　梅野保子
雨はれて月影おちる青葉かな　東京　三宅久子
忍ばるゝ笛の遠音や青葉時　東京　柿崎瀧子
垣越しに友呼ぶ笛や青葉時　京都　磯谷禪子

第廿七回作歌募集
題　愛國婦人會總會
選者　某公爵夫人
規定　一人三首以下
優等の作歌は五月二十日發行本紙上にて披露すべし

第十二回短文募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　一行十八字詰十五行以下
優等の作は五月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第八回俳句を募る
題　清水
選者　編輯局同人
規定　一人三句以下
優等の句は五月二十日發行の本紙上にて披露すべし

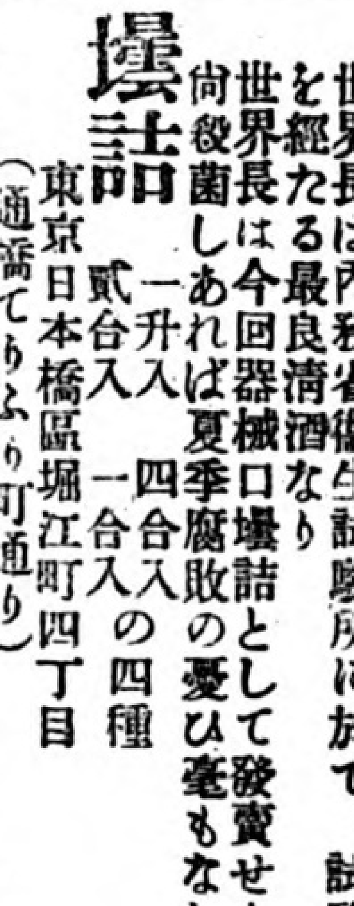
第壹回新體詩募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの
優等の作は五月二十日發行の本紙上にて披露すべし

締切五月五日限り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉洋酒 ◉鑵詰 洋食料品 食器具類

最上清酒



世界長は內務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり

世界長は今回器械口壜詰として發賣せり尙殺菌しあれば夏季腐敗の憂ひ毫もなし

壜詰 一升入 四合入 貳合入 一合入の四種

東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）

發賣元 高橋商店 電話浪花一五六一番

◉女醫學生募集◉

●前期生二百名 ●後期生五十名

新領土の發展は益々女醫養成の必要を感ぜしむるに至れり、本校は此趨勢に應ぜん爲め此際規模を擴張し講堂を新築し來る五月一日より新學期を開始し入學を許す四月二十五日迄に願書を提出すべし

詳細の規則は郵券三錢を要す

東京市麴町區飯田町四丁目九番地

東京女醫學校事務所

二八水は進歩せし化粧水の随一なり

効能は世間已に定評あり

中瓶 壹本拾五錢

花王石鹼本舖

東京馬喰町

長瀨富郎製品

目

有色友僊 縫刺絞り 半ゑり帶揚類

○春季用ショール部花織 粗織 縮緬刺繡類

○新柄染模樣 帶片側 丸帶 博多伊達卷

○裾模樣け出し地 絞り兵兒帶地 ネキタイ

○有功賞受 すゞめ形 ゑり治形 紀念形まげ入

春季節柄取揃

新橋竹川町十二番地 電話新橋二〇二七 ゑり治本店

神田表神保町壹番地 電話本局九五二番 ゑり治支店

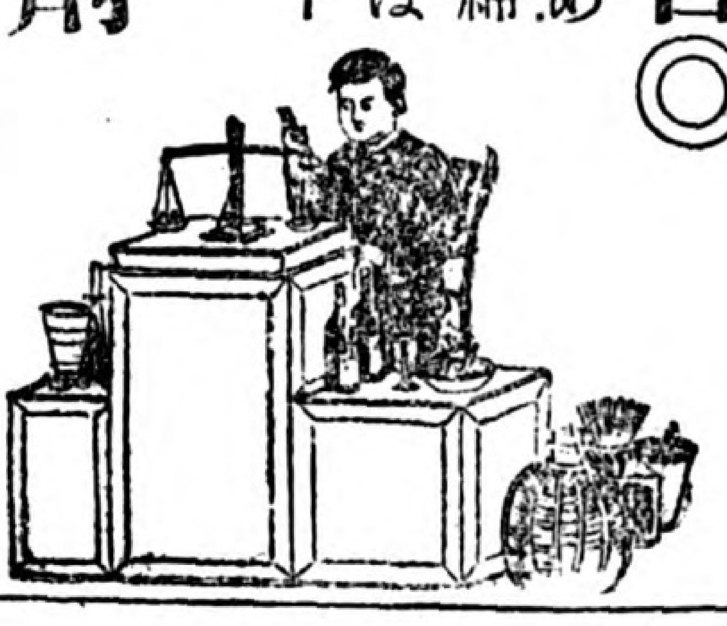
新橋際博品館內階下 ゑり治出張店

◎醫家處方調劑廣告◎

弊舖には藥劑師をして藥局のみを擔任せしめ醫師の處方箋に係る調劑に極めて懇切丁寧綿密に且つ迅速に調劑可仕尙之に要する藥品は最も純良品を撰び確實に調劑致し候に付御下命有之度希上候

●帝國醫科大學附屬醫院
●日本赤十字社病院
●各府縣立病院
●各公私立病院

醫家處方調劑



東京郵便局指定調劑所（電話本局一五一八番）

神田區今川小路三丁目角

尾澤純良堂 藥劑師 大西橋三藥局

弊店今回造花材料販賣業開始致候處各位の御愛顧に依り日增に繁榮に趣き候に就ては御禮の爲め尙一層品質の撰擇に注意し流行に後るゝ事なきは勿論價格の低廉を旨とし御需に可應候間多少に不拘陸續御購求あらんことを

最新流行和洋造花類

裝飾用造花並花籠類

優等最新リボン各種高等化粧品類小間物各種

各女學校御用

本鄕區本鄕貳丁目貳拾六番地

宮部造花店

婦人洋服地並袴地

帽子及小間物

一式販賣仕候

其他婦人洋服

販賣

東京市麴町區麴町貳丁目

八木屋號 大國市藏

（電話番町七百四十二番）

貴婦人用小間物類

京染御半ゑり

其他束髮用品各種

東京日本橋區通り三丁目交番角

電話本局二千九百四十七番

女學通信教授

●本會は伏見若宮妃殿下を名譽總裁に戴き鍋島侯爵夫人會長として會務を統監す

●小學卒業後進んで高等女學校に入學し難き事情ある女子達は本會の通信教授に依て家庭に居ながら必須の學科を修められよ

●本會發行の講義錄は高等女學校の科目よりも一層多數の諸學科を網羅し第一流の名家を撰びて講義を囑托せるものなり

●本會は高等簡易の兩科を設け女子素養の程度に應ぜしむ月謝は高等科四拾錢簡易科二十錢とす目下入會に都合よし會則は葉書か電話にて請求あれ（電話番町一三三〇）

東京市麴町區下二番町三七

大日本女學會

カメリヤ洗粉

本品は時代の要求により生れたる最新最良の洗粉也

カメリヤは一家傳來的なる陳腐の原料を用ひて製せるものと全く其質を異にし最も皮膚の衛生に適する劑料を特に選し斯道大家の學理に基き極めて完全に配合せるものなり

皮膚を清潔にし色を白くしきめを細かに艶をよくし肌を滑かならしむる點に於て他品に見る能はざる特長を有す

カメリヤは愛すべき香氣を有し一度之を用ゆれば花香芬々永く身邊に止り自ら爽快ならしむ

定價瓶入十二錢袋入五錢小袋入三錢

本舖 發賣元 ライオン齒磨 東京神田 小林富次郎

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

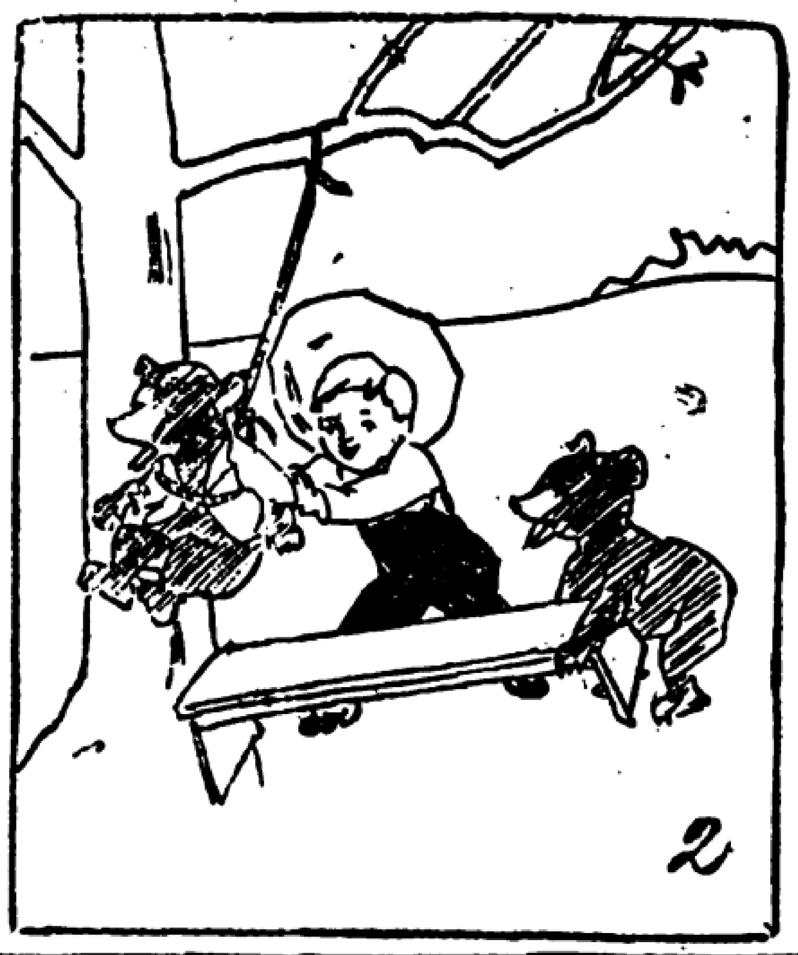
●**皇孫殿下の御近狀**　皇孫殿下御三方には去る八日を以て青山御所に還啓あらせられたるが畏れ承れる御近狀を傳へんに御三方の御健やかに生長せ給ふは

申すまでもなく迪宮、淳宮兩殿下には御學業も追々と進ませられ御用邸御滯在中は例の足立清水の兩女官傍を去らず毎日一時間乃至一時間半幼稚園式の御教育を施し奉りたり兩殿下また勉學に趣味を有たせ給ひ御手自ら粘土を捏ねて鳥獸の形を造られ或は染色夢料にて種々の花を造らせ給ひ御遊戲は目隱し鬼子遊繩飛びなど男ましき事のみ好ませ給ふ御兄弟の情誼に深く渡らせらるゝ事は數ば傳へ奉りし如くなるが御運動の折御一方缺けらるゝ時は近侍の者に向はせられて早く呼び來れと仰せらるゝが例なりと云ふ又迪宮殿下術めの御風邪にて臥させ給ひし時の如きは淳宮殿下には御遊戲御運動にも出てられず御兄君の枕頭に侍りて徒然を慰められしなど申すも長き情誼ある御性にあらずや、兩殿下には日常斯る睦しき御生活を續けられ晩餐後には修身に關する讀物繪畫などに御眼を曝され八時頃御就寢の例なりと承る、第三光宮殿下の御發育佳良なるは驚く斗りにて二月上旬よりは御乳人の乳を用ひさせられず牛乳を召飲り給ふ傍ら粥と魚類の御食事を取らせられ給ふ程になれる由、扨青山御所に還啓せられし兩殿下には此度幼稚園三年の御教育を受けらるゝ事となり御學友の光榮を擔へる伯爵久松定謨氏次男定謙(七つ)男爵千田貞曉孫貞清(七つ)の二少年は此程より御所に參候したるが同じ光榮を頒たれられたる稻葉子爵長男直通(七つ)は母堂と共に目下豐後に旅行中なれば歸京次第御所に參ずる事となれり尚兩殿下には實物教育を受けさせられん爲上野博物館動物園植物園及び日比谷公園等に折々通はせ給ふべしと承れり

●**東京博覽會の建造**　來年三月廿日より開館せらるゝ東京府勸業博覽會の敷地は上野公園地內と決定せり今其の建造の大要を擧ぐれば帝國博物館附屬五號館跡に參考館美術館を設け運動場の南端に木橋を架して谷四家寺一帶の地に設くる機械館、農林水產館、工業館、家畜舍等に參觀者を導く設計なり、正門は屏風坂の右側に臨み機械、農林、工業等の丁字形建造の中央に花園、噴水、奏樂堂を置き材料は大部分木材を用ふる筈にて總建坪四千五百坪、畜舍二百七十八坪と計上せらる、此經劃の爲め第五號館の急速取毀さるゝ都合なるも博物館が某會に本年十一月迄貸借の契約を爲したる爲め府は先づ四家寺の廢墟より建築に着手する筈なりといふ

●**學習院の女學部**　本月十一日より從來の華族女學校を學習院に合併することゝなりたるが同校の沿革を聞くに明治十年學習院を設立せられ華族女子就學の途始て開け　天皇皇后兩陛下同院へ親臨あり毎に優渥なる勅旨令旨を賜ひたりき其後明治十七年七月十一日の勅諚を以て華族女學校設立の事を決し賜ひ十八年九月宮內省より學習院の女子部を廢し華族女學校の設立を華族一般に達し校舍落成と共に校長以下の任命あり同年十一月十三日皇后陛下行啓令旨を賜ひたり是れ即ち同校開始の紀念日と稱すべきものにして爾來二十二年の星霜を經過せり然るに昨年學習院の學制規則改正あり一大刷新を圖りしに次て今般　聖旨により復當して學習院に併合し程度の如きは從前よりも高まり文部省直轄高等女學校と同等にし最上級の專修科を專門とし普通學年を短縮して高等學科の年限を長くしたるは就學女生の爲めに慶ぶべきことにして歐洲貴族女子教育の法を參酌して刷新を行ひ新空氣を入れんとの聖旨により今回の併合となりたるものなりと

●**女子美術學校**　は明治三十四年四月佐藤醫學博士夫人靜子を校主として開校し以來昨春まで四回の卒業式を擧げ三百七十餘名の卒業生を出し今や實に在校生八百餘名を算するに至れり學科は日本畫科、西洋畫科、彫塑科、蒔繪科、刺繡科、編物科、造花科、裁縫科の八科に區分され八百餘名の在校生を有する外醫學年學生の增加に依り更に校舍の新築を企劃しつゝあるまでに發達し來りたるは固より經營の宜きを得たるに依るべきも亦社會の大勢と必用とに促されたるの因なくばあらざるべし▲女子の生產力　日本の女子は其數殆ど男子と相半し其生產力に至りても又毫も見るべきものなく偶々職業を有せる者と雖も多くは彼の女工職工などの名稱の下に葬られつゝあるを以て所謂女子の生產力なるものは著しく減殺して國家の生產力は一に男子のみに限られたるかの觀ありしも近年漸く女子の位置を重んじ來るの風あると共に其職業の範圍を認むるに至れるは學覺機運の然らしむるところなるべきも又更に他の原因として見るべきは▲美的觀念　女子が美術技藝の研究に耽るが爲めに漸次精神的教育を讀んじ即ち女子固有の美德を喪失せんかとは第一に起る問題にて固より此の弊を否認する能はざるも女子が生產力に依りて一家の經濟を助け且つ女子が美術に對する美的觀念を養ふことは社會の平和を扶くるに至大



の力あるのみならず女子が其職業を勤勉するの念慮は間接に金錢の貴重、時間の貴重なる理由をも知得し職工傭人等に對する同情をも喚起するに至るべし此等の事情より同校は益く時機に投じ現時の盛況を致せしなるは疑ふべくもあらず扨又▲卒業生の位置　如何と見れば同校は最初未だ世人より餘りに重を置かれざりし爲めか卒業生も思はしき位置を得ざりしも近年に至りては漸く教師として地方の各技藝學校に聘せらるゝも

の增加し來たり現に今春卒業生中の五名は既に教師招聘の約ある由なるも其過半數は卒業後結婚を爲すものと見て差支なかるべく中には折角學び得たる技藝的智識を發揮するの機を失するもの多かるべきも要するに卒業生は他の技藝學校と異り普通學の知識充分なるを以て教員としての成績頗る好なる方なりと向ほ入科の中にて造花、刺繡、裁縫の三科は志望者多く卒業後向く口も充分なるが現時は彫塑科及蒔繪科の志望生は最も少き由

●**女子職業學校**　近來女子の思想向上するに從ひ美術の如き特種の技藝を習得せんとする者漸次多きを加ふるに至りたるが神田一橋の共立女子職業學校の如きは從來高等小學二年卒業の者は無試驗にて本科に入學せしめ乙科は尋常小學卒業生を入學せしめ來りたるも昨年學期に至りて申込者千名以上に達し申込順序に依りて入學を許したるより實力有る者も爲めに入學するを得ざるに至りたるが其結果として入學の上は學力の平均を缺き授業上非常の不便ありし爲め本學期より入學方法を變更したり▲入學試驗實施　本年の入學申込者は總數六百八十名にて其內試驗合格者二百六十九名外に高等女學校卒業生八十名而して現在生徒總數は八百名なり又受驗の際算術の爲め落第せし者頗る多かりし由▲志望者多き學科　同校にては學科を裁縫、刺繡、編物、圖畫の四科に分ち裁縫科は志望者頗る多く全生徒の殆んど三分の一を占め是に次ぐは造花科にて本學期には校堂狹隘の爲め百名餘の不入學者を出せり▲卒業後の生徒　多數は高等女學校又は技藝學校の教員に聘せられ何れも修得したる技術に依りて獨立せらるゝも年若き者に在りては大抵結婚するとの事なり

●**女學校出身者の給料**　本年卒業せし日本女子大學の英三十四名を始め女子職業學校女子美術學校東京裁縫女學校其他官立にては女子高等師範の九十八名東京音樂學校の甲種師範科の八名是れ等何れも社會に出てゝ良妻となり賢母となる者多き中に地方女學校の教師として赴任する者も亦鮮からざるが其出身の學校によりて月給の額に差異あるを槪れ左の如くなりと云へり

▲女子職業學校　自十七圓至二十圓
▲女子美術學校　自十七圓至廿二圓
▲東京裁縫女學校　自十五圓至廿二圓
▲日本女子大學校　自十五圓至廿二圓
▲女子高等師範(本科)　自三十圓至卅五圓
▲同上選科　自廿五圓至三十圓
▲東京音樂學校(甲種師範)　自廿五圓至卅五圓
▲女子英學塾　自二十圓至廿五圓

以上は孰れも交通至便の地方に赴任する者の相場なれど琉球とか北海道とかへ赴任する者は五割方も高しをなり然れど以上の卒業生にても東京にてチョイと雇入れんとならば先づ二三圓から十圓位までにて雇はる可く市中の私立小學などに奉職し居る女教師の月給高を聞くに大槪は五六圓にて安きだけ夫れだけ無責任にて又腰掛的なるが多し此外速成のものにては左の如し

▲女子計算員養成所　自六圓至十二圓
▲寫眞學校女子部　自廿圓至三十圓
▲女子體操音樂學校　自十五圓至廿圓
▲秋穗割烹教授所　自十三圓至卅圓
▲博愛看護婦會　日當五十錢以上
▲東京派婦養成所　自八圓至十五圓

●**女子大學卒業式**　日本女子大學に於ては去る十一日豐明館豐明圖書館及び小學校幼稚園等の落成式を兼ね大學部の第三回卒業式を擧行したり委員として大隈伯澁澤男爵の演說あり成瀨校長の告辭に對し卒業生總代の謝辭あり來賓として牧野文部大臣一場の演說を爲したり今回の卒業生は大學部家政科七十八名國文科四十名英文科十六名ありし

●**女子體育場の移轉**　東京府教育會が女子の體育場として陸軍省より借受けたる品川第三臺場は平和克復と共に戰利品の置場として取上げられたるより府教育會女子體育部にては其移轉先の選定中なりしが愈々向島花月華壇を一ケ月卅五圓にて借入れ一週一回即ち一ケ月四回の專有運動場とすることに交涉略ぼ纏りたれば運動機械器具の設備完成と同時に來月より開場することゝなるべしと云ふ

●**電車乘客の戒**　獨逸の新聞に揭けたられたるを日本の諸新聞に轉載せしが尙本紙は日本人に最も適切なる樣に作り直し左に之を揭ぐ

(一)電車に入らんには先づ出る者の通路を妨ぐ事勿れ
(二)電車より降んとする者は豫め出口にて停車を待て
(三)進行中乘車する勿れ又下車する勿れ危險なれば也
(四)電車にて車掌に兩替さす勿れ賃金は先に出し置け
(五)乘車券を大切に仕舞ふ勿れ渡す時不便なればなり

(六)乘車中にて友人と永別の如く丁寧な告別なす勿れ
(七)乘車前車臺の往き處を調べ乘替の躊躇を開く勿れ
(八)車掌運轉手に話を仕掛るな彼は他に任務を持ば也
(九)濡たる傘を他人と自己との中間に置くことなかれ
(十)場所を他人に與へ得るに二人前の場を占むる勿れ
(十一)若き美人に席を讓るのみならず老人にも讓へよ
(十二)男の乘客は女の顏を見詰る勿れ若き婦人に特別
(十三)女乘客は他の女客の服裝を穴の明く程見る勿れ
(十四)決て他人の足を踏む勿れ跡むべく伸し置く勿れ
(十五)他客の默想を妨ふほど大聲に語るが如き事勿れ

婦人の慰問使

愛國婦人記者手島益雄著　好評第四版　一部金拾錢

記事の一節

▲二〇三高地　最初自分が綱を付けて刀自を引揚げる計畫であつたが、來て見れば夫には及ばぬ、刀自と吾輩とは西洋人が夫婦づれで步行する時のやうに腕を組合して、杖を右の力として休み〳〵遂に登つた旅順攻擊で一番多く戰死したのは此處である、所謂る人の山を築き血の海を流したのであるが、今尙血腥き風が吹いて居る、刀自は熱心なる祈禱を捧げられた、天然はこの慘狀を速かに回復せんと力めて居る、野には秋草が生へて屍の上を飾つて居る、桔梗、刈萱、女郞花なぞが咲亂れ、蟋蟀は戎衣の袖隱れに鳴きすだいて居る、露は遺族の涙であらう、草から登つて一行の袂を濡らし、地楡は一行婦人の袂に縋り、今暫しと引留めるやうである、刀自の叩く鉦の音が此戰場の秋を一層深めて來た、婦人の纖い腕で拔かれた秋草は乃木保典氏の墓に供せられた、婦人と古戰場、嗚呼好個の詩題ではあるまいか、古人句あり　無殘やな兜の下のきり〴〵す

發行所　愛國婦人發行所

婦人案內

▲行數は五號活字三行限　▲廣告料は一回金三十錢

●求妻　高等工業學校卒業現某商店勤務齡廿八身の丈五尺七寸五分身の丈五尺二寸以上の妻を求む寫眞履歷送れ(私書函第一號)

●求婚　東京音樂學校卒業年齡廿四歲月收入三十圓相當なる資格者に嫁し度し(私書函第二號)

●求妻　地方中學校長老母と飼鳥あり家裕ならざるも無負債社會教育に盡さんとする同志婦人を求む寫眞履歷送れ(私書函第三號)

●求妻　知人文學者富裕ならざるも貧しき生活は爲さず年卅二、無係累、文學趣味ある初婚婦人を望む寫眞履歷送れ(私書函第四號)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第五回內國勸業博覽會

貳等銅牌

夏季用本清涼足袋

○清涼足袋ハ曩ニ特許局ニ出願シテ登錄商標專用權ヲ得タルモノナリ

○清涼足袋ハ要局ノ外ハ單衣ニシテ底ハ中部ニ氣孔ヲ穿チタル新意匠品ニシテ盛夏ノ際ニハ最モ適切ナルモノナリ

○清涼足袋ハ材料最モ優逸ニシテ且完全ニ清涼的能力ヲ具備セルヲ以テ啻ニ經濟ニ適スル耳ナラス衛生上ニモ絕大ノ效力ヲ有セリ

○清涼足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ穿チ具合ノ可良ハ一點疑ノ存スルナシ

夏用單衣 清涼足袋

購入簡便　遠國御需用者ノ御便利ヲ圖リ東京郵便區外十足以上御需メノ方ニ限リ御送金ナク且送料下店負擔ノ上代金引替小包ニテ發送可仕候故ニ地方人士ハ坐ナガラ東京名産ヲ無賃ニテ購入スルヿヲ得ラル、ナリ

都足袋 粹乃友

○都足袋ハ曩ニ農商務省ニ出願シテ登錄商標專用權ヲ得タルモノナリ

○都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粹士ノ歡迎ヲ受ケツ、アリ

○都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フヿナシ

○都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合適良ニシテ縫目ノ破綻スル虞ナシ

○都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラサル効力ヲ有セリ

白羽二重 紺羽二重 絹足袋

○本品ハ高等服裝ノ際ニハ最モ必要ニシテ殊ニ交際場裏且ハ婚姻ノ盛典ヲ擧ゲラルル時抔ニハ本品ニ賴ラザレバ華美ナ盛裝ニ缺點ノ譏アル耳ナラズ貴重ナル衣服ノ裾ヲ傷フヿアル可シ

龜屋

三重足袋君の盃

○本品ハ曩ニ特許局ニ出願シテ登錄商標專用權ヲ得タルモノニシテ名稱ノ如ク甲三重底三重ナリ優ニ二足ノ耐力ヲ有ス

三越呉服店裁縫所

日本橋區室町三丁目

龜屋足袋店

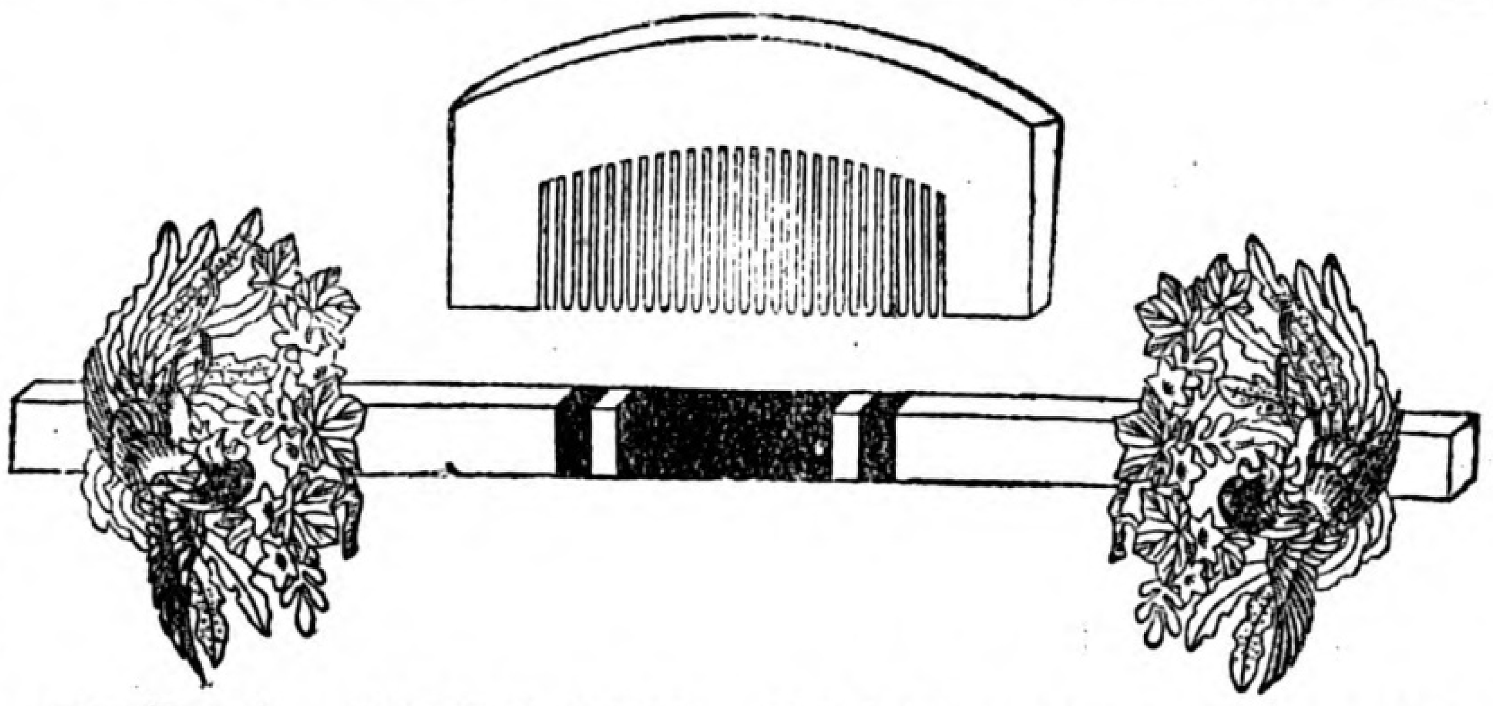
宮內清兵衛

電話本局千七百十二番

電信略號（カメヤ）或（カ）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

儀式用御櫛笄



上圖櫛笄の材料は鼈甲なれど鼈甲の中にも品質の佳からざる物少からず此品は鼈甲中の最良質を精選して良工の手にて成りたる物なれば透明にして狂を生ぜず幾久しく御道具となるべき逸品なり

○本甲製一組價
二十五圓　三十五圓　五十圓　七十五圓　百圓　百五十圓　二百圓　二百五十圓

○甲張製一組價
十圓　十二圓　十五圓　十八圓　廿圓　廿五圓　三十圓　三十五圓

東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
松田幸治郎
電話新橋五五一番

美人ムスク石鹸

此岔形ナキ物ハ模擬ナリ

美人ムスク白粉

輸入元　東京市日本橋區新和泉町　桑原花生堂

新着帽子

レース、ショール、香水、石鹸、舶來花、西洋人形、ハンカチフ、リボン類

東京市神田區裏神保町一番地
中久商店

TRADE MARA

春夏用ショール　雛形色合寫眞呈ス
フラネルセル地　見本呈ス
旅行用毛布チリヨケ外套車用膝掛種々其他
洋織物、裁縫物、ケット、敷物類何なりと御注文

ツカタヤ
東京湯島切通下　電下谷一三一四

最上醤油　キハク印

於聖路易博覧會　名譽大賞牌受領

キハク印醤油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　電信略號（キハク）又（ハク）

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七

電話四千百三十九番

京橋銀座一丁目　米村屋

最新流行　美術蒔繪櫛

東京日本橋區

浪花一四四六

英字めど

特許

賣

最新最良の婦人玉手箱出づ

西谷龍顯君編著（新刊）
婦人の重寶
（製本成る）（總振假名）

本書の内容

（一）家事の重寶　△掃除法△臭氣を去る法△家具しみぬき法△洗濯法△磨き法△釘抜法△錆を去る法△接合法△洋燈の注意△蟲退治法△家具保存法△燧の取扱法

（二）臺所の重寶　△玉子料理と飲料△肉料理△穀類△野菜ノ調理△菓子と果物△臺所の心得△物の貯藏法△物の試驗法△腐物ノ利用

（三）育兒の重寶　△幼兒の保育△初生兒の營養△齒の注意△小兒と睡眠△小兒取扱上の注意

（四）醫療の重寶　△應急の手當△中毒の手當△飲食物の注意及藥品△病時の注意△病氣傳染豫防△凍瘡の手當△種々の手當△用具の手置

（五）衣服の重寶　△白色もの丶取扱△フランネルの手置△メリンスの取扱△黑色もの丶取扱△毛皮の手置△面布の取扱△毛糸もの丶取扱△靴下の注意△羽毛の手置△しみ抜き法△染色法△裁縫の要

（六）化粧の重寶　△色を美しくする法△髮毛を美しくする法△眉毛の手入△齒の養生

（七）ナフキンの折方（一々繪圖を入れて說明す）

以上の各數百項目に細別して最も分り易く通俗平易に說明してあります

大阪表本價五拾錢　郵稅六錢　切手代用一割增のこと

東京京橋區南紺屋町二十二番地　實業之日本社　賣捌各地書店

ちく波みそ

味噌醤油釀造業　竹口作兵衛
乳熊屋
東京深川區佐賀町　電話浪花一三〇三
各地味噌醤油問屋

FORMALIN SOAP

◎殺菌防腐皮膚病一切によろし
◎養蠶家手洗消毒に最もよろし

ホルマリン石鹸

消毒專用　化粧用　洗濯用

本舗　藥種問屋　園[illegible]商店
東京市日本橋區本町三丁目七番地

電話本局一[illegible]番

特別大販賣
東京市京橋區銀座町三ノ十三
仲德商店

消化新藥

工學博士高峰讓吉氏に由て發見せられたる有名なる胃腸新藥タカヂアスターゼは粉末錠劑水劑の數種として各藥店に販賣せらる

摸造品數多あり必ずタカヂアスターゼ名稱及弊店名義に乞御注意

本劑に關する說明書は御申越次第贈呈す

東京市南茅場町二番地
三共商店藥品部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小說 **野菊の墓**

伊藤左千夫作　中村不折畫

▲正價金卅錢 ▲郵稅四錢 ▲美本

▲野菊の墓は其の名の示す如く、可憐なる、清新なる田園趣味に富みたる物語にして、著者の悲しき實歷談なり。其の一字一句皆涙にして、民子が哀れなる一生は何人も同情を禁じ得さる所なり。蓋し時流を抜きたる傑作にして、某氏は之を讀てエノック、アーデンの面影ありと推稱したり。

東京築地二の二五 **俳書堂**

めざまし[illegible]

●色白く艶をだす

松澤ボーサン石鹸（大形一個廿錢 小形一個十錢）

●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意

●當市内は勿論到る所賣藥小間物化粧品店にて販賣す

東京本石町四丁目 芳香藥種問屋 ムスク香水本舗 **松澤常吉**

製造販賣元祖

●絹綿 ハンカチーフ

●和染舶來 風呂敷類

●タヲル、敷布

尚御誂印入石版銅版寫眞入等應御好何程多數にても迅速調製上納仕候

東京市日本橋區元濱町 **高橋政右衛門**（電話浪花九百八拾番）

●夜具・蒲團類 綿ざぶとん

街鐵外濠線小川町東明館の前に下車を乞

東京神田區表神保町 諸官省御用 **矢田商店** 電話本局二千十八

市内無賃配達

●綿質保險附 ●正札引なし ●絹布仕立あり

胃病良藥 **太田胃散**

四月一日より

第十一回新柄陳列會

凱旋紀念桃山式新製品陳列

寄せ切れ見切り反物大賣出し

意匠參考時代品陳列

懸賞圖案江戸褄模樣陳列

東京日本橋區駿河町

三越呉服店

新學期開始

◎**會員大募集**——目下入會の最好機なり 四月廿四日第一號發行

▲事情があつて高等女學校に入る事の出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ケ年間に高等女學校程度の教育を完全に正則に授けます

▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありませんが、本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いようにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を每號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で、且つ教育に充分經驗のある方のみです、講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから、本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です

▲本會講義錄は右に述べた通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都會一ケ月の遊學費で優に全期を終はる事ができます

大日本淑女學會 高等女學校程度 講義錄 發行

批評一班

▲中央新聞評　講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也

▲毎日新聞評　米國の通信教授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり

▲二六新聞評　高等女學校の全課程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり

▲日々新聞評　講義はすべて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり

▲都新聞評　講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一頭域を拓き得可し

▲報知新聞評　講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也

上掲の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲本會規則書▼ 端書にて申込あれば直に郵送す可し

◎東京神田南甲賀町 **大日本淑女學會** 電話本局三千四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局 三、三〇〇番 四一一番 （特）三七番 一〇二番
一定期預金 年五分
一當座預金 日步七厘
一特別當座預金 日步一錢

定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日步 八厘
特別當座預金 同日步 壹錢壹厘
東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番

田中太郎君譯
堅信美談 薄命兒 定價三拾錢 郵稅四錢
之れ十歲許りなる娘が父の留守中母に死別れ半歲の長き月日ナザレのイエスの敎に慰められ勵まされ導かれつゝ幼き弟妹を保養しつゝ絶大の患苦と戰ひたる堅信美談なりア、薄命兒！併しながら立派なる薄命兒！血あり涙あるものは讀め

足立栗園居士著
赤裸にしたる日蓮大士 定價二拾錢 郵稅四錢
破天荒の奇書……日蓮大士の眞面目露出の一世怪僧の一讀趣味津々として盡きず加ふるに人を魔するの筆力あり日蓮大士を赤裸として細密に批判せしもの我國宗敎史の大體に通じ日蓮の人物性行を知らんと欲するの士は須く一讀せよ

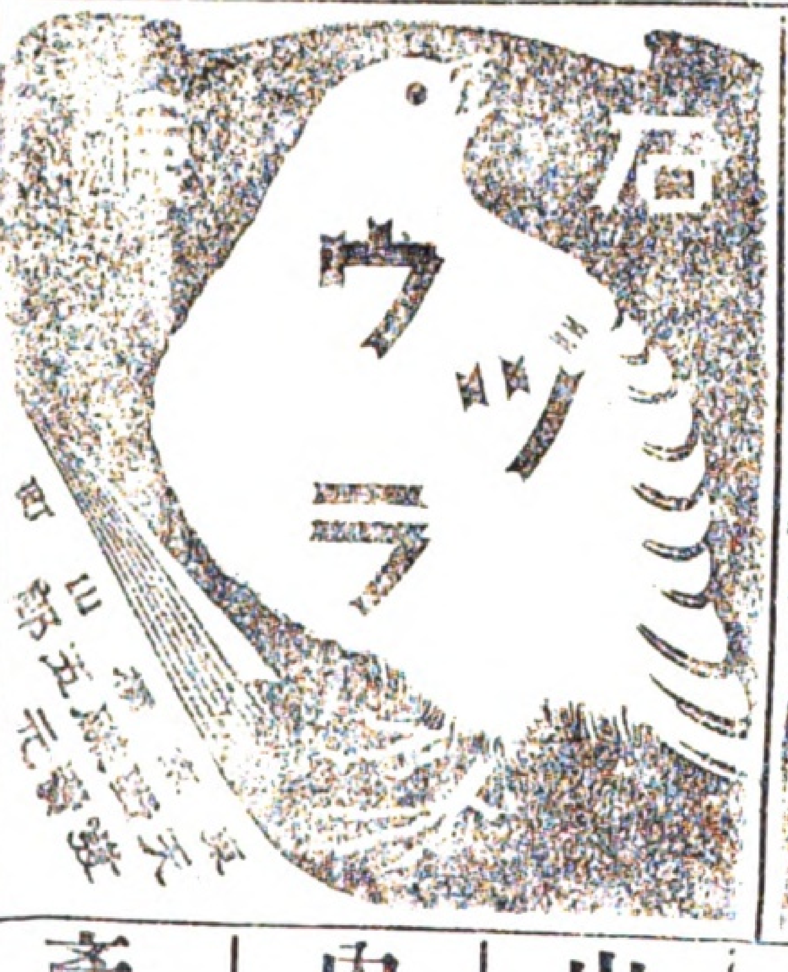
德富健次郎著
第十三版 黒潮 第一編 定價四十錢郵稅六錢
右品切の所印刷成る
發兌 東京京橋尾張町 警醒社書店

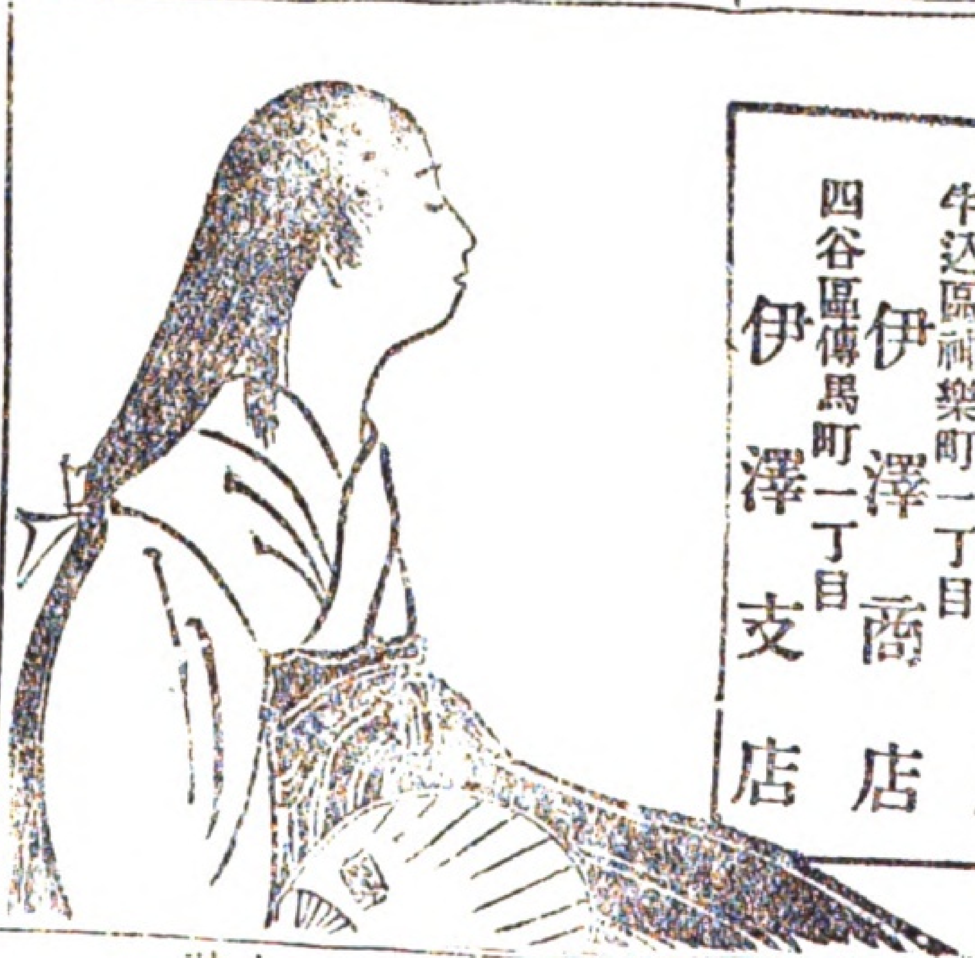
◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
◉品質佳良の肉類廉價に販賣候
◉配達は迅速に且つ正確に致候
◉滋養と風味の西洋料理調製候
◉西洋料理出前は格別相働き候
◉米店は精撰の白米廉價販賣候
◉御注文は電話又は葉書て願候
小石川表町廿二番地 電話番町六五九 西川本店
本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二三七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一四六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

スコット乳劑
小兒ノ發育期ニ用ユルハ其効驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ
證明書ハ橫濱郵便局私書函第五十八號
スコット乳劑發賣部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店橫濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

（英文の譯註出版）
大隈伯爵序文
元帥山縣侯爵 大山大將 乃木大將 題辭
陸軍步兵中尉櫻井忠温著並畫
旅順實戰記 肉彈
正價七拾錢 郵稅八錢
（三石版口繪入）
[illegible]
發賣元 東京 ◉東京堂 ◉上田屋 ◉北隆館 ◉良明堂 ◉東海堂 ◉其他全國各書林

巴里の精粹 新荷着
◉貴婦人用春夏帽子
◉小兒用帽子及上衣
◉キヤンバース數種
◉洋傘及手袋沓下類
◉敷布用タオル切地
◉精巧舶來人形各種
◉洋花。リボン。レース。流行コム櫛。香水。石鹸。白粉。其他西洋小間物一式
東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與 三枝小賣店
電話新橋三九二七





東京日本橋區長谷川町 卸部 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
本郷區本郷五丁目 小賣部 美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町 電話下谷一四一五番 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

醫院案内

◉產科婦人科 櫻井醫院
芝區明舟町十九番地（電話新橋三三二四）

內科小兒科 特に呼吸器病
麹町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀬元九郎
電話番町八二二番

院長 醫學博士 榊順次郎 每日午前診察
副院長 醫學士 久保德太郎 每日夕刻診察
婦人科產科榊病院
東京麹町三番町廿三（電話番町三九五）

產科婦人科專門 ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
各科診察午前の通
芝愛宕町 東京病院
新二六四 同二六二〇

◉婦人科專門 午前宅診
◉小兒科專門 午前往診
東京市麹町區飯田町四丁目九
女醫鷲山彌生

◉產科婦人科 醫學士 伊庭秀榮
◉京橋區南鍋町一の一角
◉朝 八時より正午
◉夕 五時より八時

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
院長ドクトル・メヂチーネ 峰秀世
峰內科醫院

東京神田錦町參丁目（電本七一五）
診察午前午後 入院隨時
院長 醫學士 山口秀高
山口眼科病院

東京神田區美土代町三丁目十七番地
電話本局貳千九百七十番
內科一般 午前宅診 午後往診 板垣亭

東京日本橋區濱町三丁目七番地
產科婦人科 楠田病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外　弘報堂
神田千代田町　博報堂
京橋區南紺屋町　一星社
京橋區南鍋町　秀逸堂
日本橋區上槇町　萬年社
日本橋區箱崎町　春風舍
京橋區宗十郎町　正路喜社
京橋區日吉町　帝國通信社
同區彌左衛門町　京華社支店
同區南鍋町　廣告社

洗用ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる[illegible]ても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◉用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脫ますシヤツの如きは（拾貳匁入）一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗う用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價　拾貳匁入　金拾五錢　袋入二錢　六匁入　金八錢

芳香御肌洗粉ワツセル

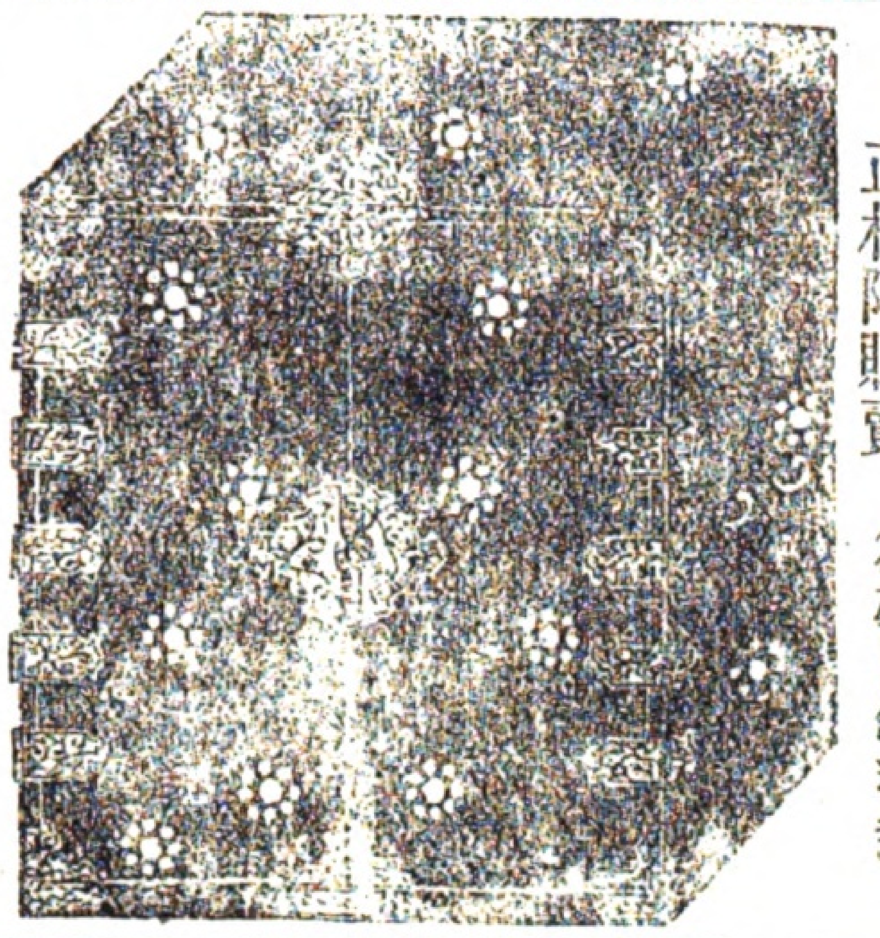
◉此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝々御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價　最上金七拾五錢　普通五拾錢　參拾錢　拾七錢
金貳拾錢　六錢　三錢

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七一二
英國製ワツセル日本一手販賣元　御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元　三友商會

高等簞笥長持類一式

正札附販賣（簞笥目錄進呈）



數代老舖　蟲害豫防實施
東京市日本橋區小傳馬町一の三
長島屋　長谷川簞笥店（電話浪花一四三五番）

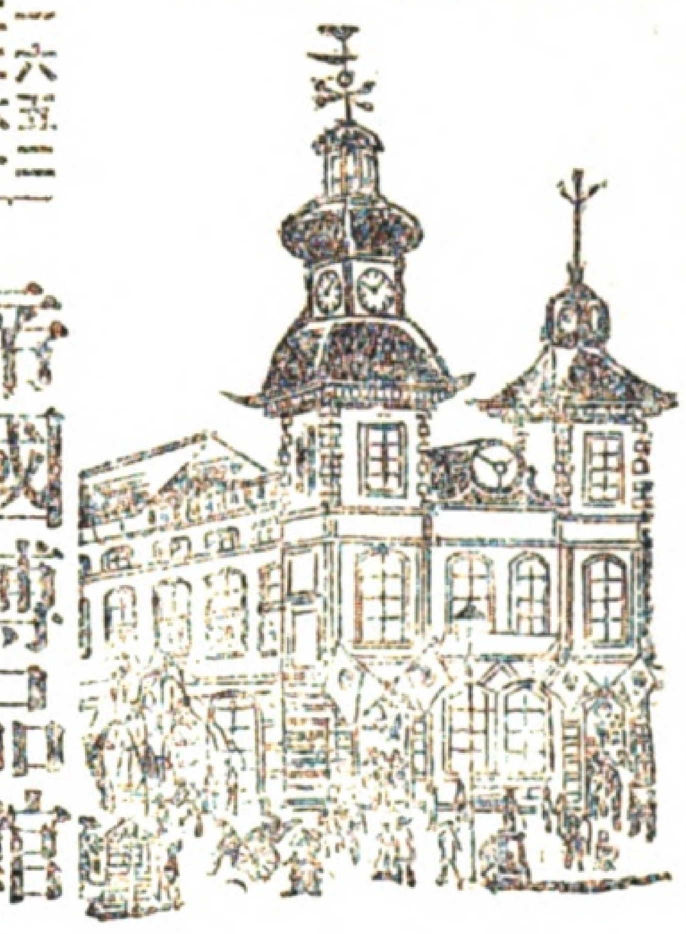
煉香油　パール

婦人用　紳士用

歐米化粧品輸入商
東京濱町一　電浪一一〇
平尾方店
香油ゴールドオイル發賣元

日本第一の大勸業場

（本場の特色）
◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市內無賃で配達致します
◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます



東京新橋角　帝國博品館　電話新橋一六五二　二三六二

ムスク香水

○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり
（大瓶壹圓　中瓶六拾五錢　小瓶二十五錢）
東京日本橋區本石町四丁目
ホーサン石鹼本舖
本舖　松澤常吉（電話本局四拾五番）

最上醬油元祖

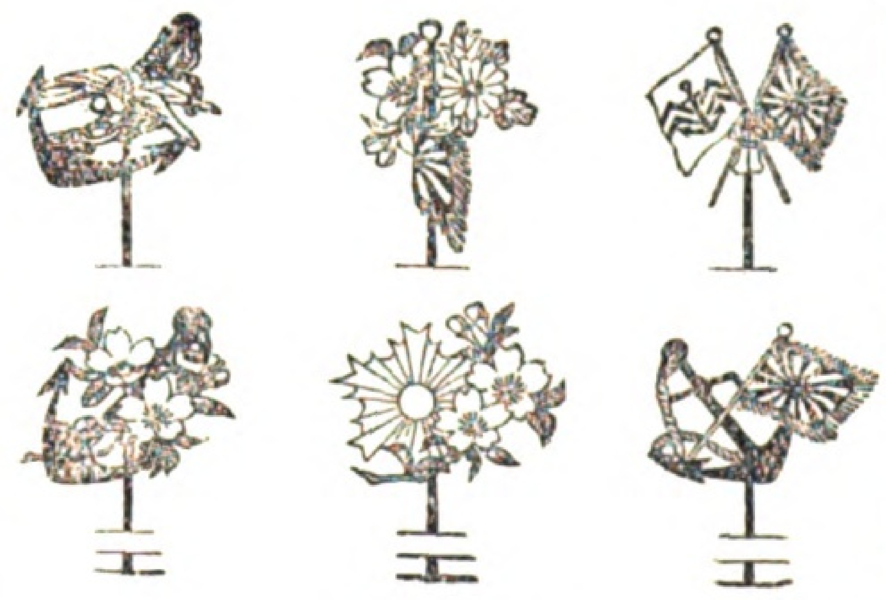
上

釀造元　下總銚子町　濱口儀兵衛
荷扱所　東京北新堀七番地（電話浪花二五九四）濱口支店

○宮內省御用達也
○開業二百六十一年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絕す
○日本一の釀造高也

北海道函館末廣町　濱口支店
大阪西長堀南通一丁目電特（西二〇五）濱口出張店

戰勝紀念ピン



銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。
定價　純銀製　一個　金三十五錢以上
餘は御好み次第迅速調製可仕候

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍戰勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮內省御用達　東京市下谷區池の端仲町　玉寶堂　電話下谷一特九六五番　一二四四番

（ラクダ印）麝香石鹼

ラクダ印麝香石鹼は高貴なる麝香に愛すべきスミレの香料を多量に含むが故に使用せバ其香氣肉体ハ元より手拭タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間ハ腹部としてかほりを失なはざる効力ハ舶來品にも未だ見ざる一大特點を有す
○（定價大形廿錢　小形拾錢）（熱心勉强なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり）
近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意
東京本石町三丁目十八番地　芳香藥種問屋　井上太兵衛

各女學校御用
附屬品並に造花器械類一式
東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛
電話（特）浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば「愛國婦人」を見てと附記し御申越し被下度候

明治三十九年四月廿日發行（每月五日二十日二回）
發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　東京麴町　愛國婦人發行所　印刷所　秀英舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十九年四月廿日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月廿七日（第三種郵便物認可）

愛國婦人會熊本支部軍隊歡迎（江木支部長より大久保師團長に花輪贈呈）

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN